

平成27年度

本宮市教育委員会の事務に関する
点検・評価報告書
(平成26年度事業)

本宮市教育委員会

目 次

I	点検・評価制度の概要	
1	目的	1
2	対象事業	1
3	実施方法	1
4	学識経験者の知見の活用	2
II	平成26年度評価対象事業	3～4
III	学識経験者の意見	5～12
IV	点検・評価の結果	13
1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実	
(1)	人とのかかわりを通じた豊かな心の育成	
①	保育所事業	14
②	幼稚園管理運営事業	15～16
③	幼稚園読書活動推進事業	17
④	ブックスタート事業	18
(2)	体を動かす遊びを通じた健やかな体の育成	
①	保育所入所児健康づくり推進事業	19～20
②	幼稚園児健康づくり推進事業	21～22
(3)	一人一人の育ちにあった教育の推進	
①	障がい児保育事業（保育所）	23
(4)	ニーズに応じた地域子育て支援の充実	
①	一時保育事業（保育所）	24
②	延長保育事業（保育所）	25
③	預かり保育事業（幼稚園）	26
④	子育て支援センター事業	27
2	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実	
(1)	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成	
①	キャリア教育推進事業	28
②	体験活動促進事業	29
③	小学校読書活動推進事業	30～31
④	中学校読書活動推進事業	32
⑤	小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業	33
⑥	中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業	34
⑦	スクールソーシャルワーカー設置事業	35～36
⑧	学校復帰支援事業	37
(2)	思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成	
①	学力向上対策事業	38～39
(3)	心身の健全な成長を目指す教育の推進	
①	小学校児童健康づくり推進事業	40～41
②	中学校生徒健康づくり推進事業	42

(4) 子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実	
① 特別支援教育支援員配置事業	43
(5) 震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進	
① 小中学校学校教育事業等助成事業	44～45
② 第1・第2児童館運営事業	46
③ 放課後子ども教室推進事業	47～48
④ 通園通学支援事業	49
⑤ 子ども安全対策会議運営事業	50～51
3 未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援	
(1) 共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進	
① 成人教育事業	52～53
② 女性教育事業	54
③ 高齢者教育事業	55
(2) 健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進	
① 市民競技力向上対策事業	56
② スポーツ推進委員活動事業	57
(3) 「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進	
① しらさわ夢図書館運営事業	58～59
(4) 学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実	
① 青少年健全育成推進大会事業	60
② 青少年リーダー育成事業	61
(5) 文化や芸術に親しみ活動する機会の充実	
① 文化芸術行事開催事業	62～63
(6) 本宮市の歴史と文化の継承と発信	
① 文化財・史跡保存事業	64
4 安全で安心して学べる教育環境の確保	
(1) 安全な教育施設の整備	
① 学校施設等耐震化推進事業	65～66
(2) 安全・安心な教育環境の確保	
① 学校給食放射性物質検査事業	67
○ 教育委員会運営事業	68～69

I 点検・評価制度の概要

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされている。

本宮市教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行に係る点検評価（以下「点検評価」という。）を実施するものである。

2 対象事業

本市では、教育基本法第17条第2項に基づき、市の実情に応じた教育の振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、平成25年度に「本宮市教育振興基本計画」（以下「教育振興基本計画」という。）を策定した。

点検評価の対象事業は、教育振興基本計画の施策体系に基づき、平成26年度教育委員会重点施策に位置付けた事業を対象とした。

3 実施方法

点検評価の実施にあたっては、対象事業の実施状況を明らかにするとともに、今後における課題・改善点を示し、次に示す4段階で自己評価を行った。

ランク	評価基準
A	目標を十分に達成した。 事務事業として大きな成果を挙げた。
B	目標をおおむね達成した。 事務事業として一定の成果を挙げた。
C	目標をやや下回った。 事務事業として期待したほどの成果が挙げられなかった。 課題や問題点がある。
D	目標を大きく下回った。 事務事業として成果が挙げられなかった。 大きな課題や問題点がある。

4 学識経験者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定による学識経験を有する方の知見の活用については、外部の学識経験者で構成する本宮市教育事務評価委員会を設置し、教育委員会の自己評価及びその評価方法に対する評価や、今後の教育行政に向けての意見を聴いた。

○本宮市教育事務評価委員会委員

	委員名	関係所属等
委員長	荻路貫司	福島大学特任教授
副委員長	坂田洋海	社会体育関係
委員	小澤悌一	学校教育関係
委員	佐藤カネ子	文化団体連絡協議会
委員	浅羽真理子	保護者代表

II 平成26年度評価対象事業

基本目標	施策	事業名	課等	係
I 子どもの主体性を育てる幼児教育の充実	1 人のかかわりを通じた豊かな心の育成	保育所事業	幼保学校課	幼保教育係
		幼稚園管理運営事業	幼保学校課	幼保教育係
		幼稚園読書活動推進事業	幼保学校課	幼保教育係
		ブックスタート事業	白沢公民館	社会教育係
	2 体を動かす遊びを通じた健やかな体の育成	保育所入所児健康づくり推進事業	幼保学校課	幼保教育係
		幼稚園児健康づくり推進事業	幼保学校課	幼保教育係
	3 一人一人の育ちにあった教育の推進	障がい児保育事業(保育所)	幼保学校課	幼保教育係
	4 ニーズに応じた地域子育て支援の充実	一時保育事業(保育所)	幼保学校課	幼保教育係
		延長保育事業(保育所)	幼保学校課	幼保教育係
		預かり保育事業(幼稚園)	幼保学校課	幼保教育係
		子育て支援センター事業	幼保学校課	幼保教育係
	II 子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実	1 人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成	キャリア教育推進事業	幼保学校課
体験活動促進事業			幼保学校課	学校教育係
小学校読書活動推進事業			幼保学校課	学校教育係
中学校読書活動推進事業			幼保学校課	学校教育係
小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業			幼保学校課	学校教育係
中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業			幼保学校課	学校教育係
スクールソーシャルワーカー設置事業			幼保学校課	学校教育係
学校復帰支援事業			幼保学校課	学校教育係
2 思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成		学力向上対策事業	幼保学校課	学校教育係
3 心身の健全な成長を目指す教育の推進		小学校児童健康づくり推進事業	幼保学校課	学校教育係
		中学校生徒健康づくり推進事業	幼保学校課	学校教育係
4 子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実		特別支援教育支援員配置事業	幼保学校課	学校教育係
5 震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進		小中学校学校教育事業等助成事業	幼保学校課	学校教育係
		第1・第2児童館運営事業	幼保学校課	学校教育係
		放課後子ども教室推進事業	生涯学習センター	社会教育係
		通園通学支援事業	幼保学校課	学校教育係
		子ども安全対策会議運営事業	幼保学校課	学校教育係

基本目標	施策	事業名	課等	係
III 未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援	1 共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進	成人教育事業	中央公民館	社会教育係
		女性教育事業	中央公民館	社会教育係
		高齢者教育事業	中央公民館	社会教育係
	2 健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進	市民競技力向上対策事業	生涯学習センター	社会体育係
		スポーツ推進委員活動事業	生涯学習センター	社会体育係
	3 「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進	しらさわ夢図書館運営事業	白沢公民館	社会教育係
	4 学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実	青少年健全育成推進大会事業	生涯学習センター	社会教育係
		青少年リーダー育成事業	生涯学習センター	社会教育係
5 文化や芸術に親しみ活動する機会の充実	文化芸術行事開催事業	生涯学習センター	文化振興係	
6 本宮市の歴史と文化の継承と発信	文化財・史跡保存事業	生涯学習センター	文化振興係	
IV 安全で安心して学べる教育環境の確保	1 安全な教育施設の整備	学校施設等耐震化推進事業	教育総務課	教育施設係
	2 安全・安心な教育環境の確保	学校給食放射性物質検査事業	幼保学校課	学校教育係
		教育委員会運営事業	教育総務課	総務係
		評価事業 41事業		

Ⅲ 本宮市教育事務評価委員 による評価

Ⅲ 学識経験者の意見

基本目標Ⅰ 子どもの主体性を育てる幼児教育の充実

【施策1】人とかかわりを通した豊かな心の育成

《評価》

保育所・幼稚園事業ともに、本宮方式ともいべき本市独自の幼保共通カリキュラムによる保育事業を展開し、基本的な生活習慣を身に付け、スムーズな就学につながっている。また、「健やか子育て相談室」を設置し、保育所・幼稚園に通わず、自宅で子育てをしている親に対しても子育て支援を行うなど、子育てについてきめ細やかな支援を実施している。さらに、園児に対する絵本の読み聞かせや、10ヶ月検診の機会を活用した乳児とその親を対象にしたブックスタート事業等、豊かな心の育成の土壌を育む読書の啓蒙に力を入れていることは評価できる。

《意見》

保育士の臨時職員の確保については、待機児童ゼロに向け努力していることを評価するが、今後とも、人員の確保に努め待機児童を無くすべく努力することを望む。

【施策2】体を動かす遊びを通した健やかな体の育成

《評価》

幼児は遊びを通して学び、技能を獲得し、心身を鍛えると言われている。そういう視点に立った時、「健康づくり推進事業」は、各施設のPTA団体に補助金を交付し、体を動かす遊びを通した健康づくりを支援することは意義があり、実績報告（活動内容）から有効利用されていることが確認でき評価できる。

《意見》

今後も、この事業が子どもの遊びを工夫し、心身共にたくましく生きる力を身に付けられるよう創意工夫することを期待するとともに、保育所、幼稚園の中だけにとどまらず、地域住民と子どもたちとの触れ合いの場などになるよう普及することを願う。

【施策3】一人一人の育ちにあった教育の推進

《評価》

障がい児保育事業では、障がい児の保育児童数が、23年度10名、24年度12名、25年度16名、26年度は19名と確実に増加している中で、子ども一人一人のニーズに合わせた保育ができるように担当の保育士が配置されており、子どもそれぞれの成長を促すことができ就学につながったと考えられる。また、同じ施設内で健常児と障がい児が触れ合える場所があることは、お互いの心の成長につながるため評価する。

《意見》

今後も、更なる子育て支援のため、不足しがちな保育士の人員確保に努めるとともに、学校・保健・福祉担当部署との連携をきめ細かに行い、保護者の理解を得ながら、家庭における就学に対する不安・悩み・負担を軽減できるように努力してほしい。

【施策4】ニーズに応じた地域子育て支援の充実

《評価》

保育所における延長保育事業、幼稚園における預かり保育事業は、昨年度と比較すると、延長保育では延べ登録者数が484人から617人に、預かり保育では延べ利用者数が27,611人から30,260人に増加している。核家族化が進み、女性の社会進出（就労）が顕著になりつつある本市においては、必要不可欠な支援であり、その役割は十分に果たされている。保護者が安心して就労できる環境を整えることができたことを評価する。

一時保育、子育て支援センター事業は、昨年度と比較すると、一時保育では利用者数が1,444人から1,939人に、子育て支援センター事業では716人から862人と増加しており、ライフスタイルの変化等に起因する市民のニーズの増加と、そういう市民のニーズに応えようとする行政努力の結果であると評価する。

《意見》

預かり保育は、遅番固定の勤務形態のため、臨時保育士の確保に苦慮しているなどの課題もあるが、市民のニーズに対する支援が、より一層充実するよう努力してほしい。

基本目標Ⅱ 子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実

【施策1】人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成

《評価》

小中学校読書活動推進事業は、計画的に図書購入が進められており評価できる。

キャリア教育推進事業・体験活動推進事業は、子どもの体験活動を中心とした活動内容で展開されている。これらの事業は、子どもの感性や情操を豊かにし生きる力の育成に大いに役立つものと期待できる。

小中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業では、各種大会等への参加において優秀な成績を収めていることは評価できる。

ソーシャルワーカーの配置、学校復帰支援事業は、全国的に見ても学校教育に不適應を起こしている児童・生徒の数は増える傾向にあり、その中で本市では、SSW配置や適応指導教室等を通して、子どもや親の心のケアに適切に対処して成果を上げており評価できる。

《意見》

小中学校読書活動推進事業は、ブックスタート事業・幼稚園読書活動推進事業の延長線上にある事業であり、児童・生徒の読書離れを食い止めるためにも力を入れて欲しい事業である。子どもの読書離れを阻止するため、新たに配置された学校図書館司書をさらに活用し、本に対する興味につながるよう努力してほしい。

小中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業では、今後とも、支援体制を継続し各種大会に積極的に参加することを期待したい。

適応指導教室は登校へと導くことを目標としており、これまで通り一人一人の実情に合わせた支援をすることを望み期待する。

【施策2】思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成

《評価》

学力向上対策事業では、小学6年生と中学3年生を対象とした、国基準の全国学力・学習状況調査に加え、他の学年の実態を知るために、診断的学力検査・学年別知能検査・学習適応検査を本市独自に実施している。これらの諸検査の結果を分析し、本市における問題点と課題を明らかにし、その結果をもとに、年2回の学力向上委員会、中学校区ごとの研修会や授業研究会、さらには年8回の外部講師による研修会を開催し、各学校の学力向上に向けた取り組みを推進している。その結果、本市総合計画後期目標値（全国学力検査偏差値小学校54.0、中学校51.0）にほぼ達する成果を上げたことは評価する。

本年度からの新規事業である「チャレンジ学習奨励補助事業」は、5割の児童生徒が参加し、漢字検定、英語検定にチャレンジしたことは本事業の成果である。合格することはもちろん、漢字や英語に興味を持ち、それにチャレンジする子供の勇気など、数字に現れない効果が確実にあったことを評価したい。

《意見》

今後は、児童・生徒個々のばらつきに配慮した個別指導の徹底と指導法の工夫をすることともに、チャレンジ学習では受験率の向上を期待する。

【施策3】心身の健全な成長を目指す教育の推進

《評価》

小中学校の健康づくり推進事業は、震災以降体力低下が懸念される本市にとって、とりわけ重要であると考えられる。各小中学校ともに市からの補助金を有効に活用し、「スポーツテスト」を実施するなど体力づくりに取り組んでおり、その結果が昨年度を上回る等の成果を上げていることを評価したい。

さらに、小学校では「歯科・食育」に関するもの、中学校では「食育」「性教育・薬物乱用」に関する内容が多く取り上げられている。各学校の実情と発達段階に応じた事業を設定していたことも評価したい。

【施策4】子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実

《評価》

特別支援教育支援員配置事業では、普通学級に在籍している障がい等のある児童生徒に対して、一人一人のニーズに合わせた教育を行うことができるように支援員が配置されている。これは、学校にとって大きな助けとなっている。また、普通学級での生活を希望する親にとっても安心して我が子を学校に通わすことができ、子どもにとっても安心・安全な学校生活が保障される。そういう意味で本事業の教育的価値は非常に高いと評価できる。

《意見》

今後は、複雑で多様なニーズに、より適切に対応できるような支援体制の充実のため、人員配置など一層努力してほしい。

【施策5】震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進

《評価》

小中学校教育事業等助成事業では、各学校が補助金を有効に活用し、自校の実情に即した様々な活動を展開している。学校独自では予算的に実施不可能な活動も、本事業の補助金を利用することにより、親に負担をかけないで実施することができている。

また、様々な体験活動や講演会等を通して先人の貴重な話を聞いたり、様々な芸術に触れたり、子どもの豊かな心の成長に大きく貢献しているものと評価できる。

通園通学支援事業、子ども安全対策会議運営事業は、児童等の安全確保はもちろん、地域全体で子どもの見守り等の安全対策に取り組んでおり評価できる。

児童館運営事業は、社会福祉協議会に委託、放課後子ども教育推進事業はコーディネーターを配置し実施している。学校や家庭以外での子どもの居場所作りの確保と地域との触れ合の場になっており、保護者や地域の人々から好評を得ており評価できる。

《意見》

児童館運営事業、放課後子ども教育推進事業については、参加数が増加傾向にあることから、今後も指導・管理にあたる人材の確保と人材の育成に取り組んでほしい。

基本目標Ⅲ 未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援

【施策1】共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進

《評価》

成人、女性、高齢者を対象とした各教育事業は、生涯学習を代表する三大領域で重要である。しかし、昨年度は、参加人数が少なかった。本年度についてみると、成人教育事業では、中央公民館が、前年度延べ205人が本年度383人、白沢公民館が、前年度延べ94人が本年度434人と大きく増加している。女性教育事業では昨年と同様であった。高齢者教育事業では、各地区受講生の総数が、昨年度116人が本年度は189人と増加している。結果、参加者数を見る限りでは担当者の努力を評価したい。さらに、各人のニーズに基づき、種々の教育活動が計画・実践されており評価できる。

《意見》

本事業の成果は、参加者数の多少ではなく、参加者の事業への満足度であり、「事業実績」か「事業成果」の欄に参加者へのアンケート調査結果などが示されることを希望したい。合わせて、今後とも各人に魅力ある講座づくりに努めてほしい。

【施策2】健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進

《評価》

市民競技力向上対策事業は、小中学校の児童生徒の技術力向上だけではなく、メンタル面を含めた競技力の向上、そして各種競技選手層の力量向上において成果を上げており評価できる。

《意見》

市民競技力向上対策事業は、数年にわたり実施されており、そろそろ総括の時期と考えられるので、種目や市民ニーズの把握について社会教育委員会や体育協会との意見交換を希望する。

スポーツ推進委員活動事業では、各種大会に協力できる委員の活動に関するもので市民の生涯スポーツの推進と直接つながらない。肝心なことは、いかに多くの市民を参加させるかである。その戦略が本施策の具体的事業として位置づけられることを期待したい。

【施策3】「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進

《評価》

読書活動の推進という視点でみると、ブックスタート事業、幼稚園読書活動推進事業、小中学校読書活動推進事業など、本市では読書に関する事業が年齢に応じ段階的に実施されており、重視されていることがわかる。

市民に対しては、読書活動の普及・活性化を図るとともに、図書館・学校図書館ネットワークシステムが本格的に稼働し、貸出しの利便性や利用サービスの向上が図られたことは評価できる。

また、町村合併のメリットとして図書館・図書室の連携により図書館資料購入など計画的に、かつ着実に進められており事業展開が充実している。

《意見》

今後は、本年度から導入された学校図書館司書との連携や市民による図書館ボランティア育成等に一層努力されることと、図書館の利用が地理的に困難な利用者のために移動図書などの回数の増加を期待したい。

【施策4】学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実

《評価》

青少年健全育成推進大会事業は、次世代の主役となる子どもたちの成長に向けて、地域住民の協力が不可欠であり、市民が理解し協力し合えるように一丸となる良い契機である。また、昨年度の課題であった「少年の主張」への高校生の参加が実現したことで評価できる。

《意見》

青少年健全育成推進大会事業は、発表にあたり各学校での取り組みの上で開催されているので、大会で発表された少年の主張や講演の要旨を市の広報などに掲載するなどして、参加できなかった多くの市民に大会の趣旨を周知する等の努力が必要である。

青少年リーダー育成事業の参加者が少ない大きな原因は、参加することのメリットが明確でないこと、及び参加してもその体験を生かす機会がないからではないか。本事業が魅力あるものに変えていく一つの方法として、学校に対するさらなる働きかけや高校の部活動との連携、任命書の交付などの工夫によって少しは改善できるように思える。

【施策5】文化や芸術に親しみ活動する機会の充実

《評価》

文化芸術行事開催事業は、市民の文化力向上にとって大変重要な活動であり、歌舞伎、映画、落語、音楽、民俗芸能など内容が多岐にわたり、個人の興味関心に応じた参加ができ、市民へのアンケート調査が高い満足度を示していることから本事業の実施は大変評価できる。

《意見》

今後も、子どもから高齢者まで幅広く親しまれる内容を提供できるよう、より一層の努力を期待したい。人気の事業については、入場券の取得方法を抽選にするなど対策をしてほしい。

【施策6】本宮市の歴史と文化の継承と発信

《評価》

文化財、史跡保有事業は、市の歴史と文化遺産を守り、後世に伝えていく活動であり評価できる。

《意見》

3年計画の岩角山「那智観音堂解体修理」など計画的かつ着実に事業を継続して欲しい。さらに、新しい遺跡の更なる発掘にも力を入れて欲しい。文化遺産は学術的な価値ばかりでなく、観光と相まって市の経済発展と密接につながる可能性があり、市内外への積極的な情報発信に期待したい。

基本目標Ⅳ 安全で安心して学べる教育環境の確保

【施策1】安全な教育施設の整備

《評価》

学校施設等耐震化推進事業として、五百川小学校東校舎及び本宮第一中学校北校舎の耐震補強改修工事が計画通りに完了し、引き続き、本宮第一中学校南校舎及び白沢中学校体育館の耐震補強改修工事に向けた設計業務が、計画通り着実に実施されていることは評価できる。

《意見》

教育施設は児童生徒の学習・生活の場であるとともに、災害時には地域住民の避難施設としての役割を果たすため、安全性の確保は重要であり、今後も同計画の着実な実施に努めてほしい。

【施策2】安全・安心な教育環境の確保

《評価》

学校給食放射性物質検査事業は、子どもたちに安全安心な給食を提供するとともに、親の給食への不安を払拭するうえからも極めて重要な事業であり、食の管理が適切に行われていることは評価できる。弁当(ご飯)を持参する児童生徒数が年々減少している。

《意見》

本事業は、保護者及び市民の関心が強く、数値で適切に管理し目に見える形で公表することで、安心して給食を子供たちに食べさせることができるため、今後も情報公開し、本市への定住と帰還のきっかけの一つになるよう継続することを望む。

総 括 的 意 見

総括として、本宮市教育振興基本計画の趣旨に沿って事業を実施しており、評価できる。

たとえば、読書活動推進に関しては、ブックスタート事業に始まり、幼稚園読書活動推進事業、小中学校読書活動推進事業、しらさわ夢図書館運営事業があり、各事業を対象者の成長過程と連動させ、事業に連続性をもたせている。

また、子育て支援に関する事業では、障がい児保育、一時保育、延長保育、預かり保育、子育て支援センター等、様々な事業形態を導入し市民のニーズに応じた多彩なサービスを提供していることは、大いに評価できる。

評価対象のどの事業も、評価できる内容であるが、広く市民や保護者、学校関係者、事業参加者の意見を聴き取るなどし、さらによい事業にしてほしい。

IV 点検・評価の結果

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通じた豊かな心の育成
事業名	1	保育所事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

保護者が就労等により昼間保育することができない就学前の児童を、市内の5か所の保育所で保育する。

[目的]

対象： 就労等により、昼間、児童を保育できない保護者
(何を・誰を)

意図： 就労等により昼間、児童を保育できない保護者に代わり、保育所で保育する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	102,256
財源	
県支出金	13,524
その他	81,850
一般財源	6,862

[事務事業の活動実績]

○入所児童数 (3月末現在)

保育所名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
第1保育所	0人	15人	18人	20人	22人	24人	99人
第2保育所	15人	16人	16人	20人	20人	17人	104人
第3保育所	0人	5人	7人	13人	18人	17人	60人
五百川幼保総合施設	14人	23人	30人	30人	0人	0人	97人
白沢保育所	14人	16人	14人	17人	0人	0人	61人
合計	43人	75人	85人	100人	60人	58人	421人

○先生1人当たり受け持てる人数

0歳児	3人
1・2歳児	6人
3歳児	20人
4・5歳児	30人

[事業の成果]

日中、仕事や介護、病気などを理由に子供の面倒を見る事が出来ない保護者に対し、保育所で子供を保育することにより、子育ての一助になった。また、安心して生み育てられる環境を整えることにより、少子化対策にも繋がった。

0歳から就学前までの乳幼児を受け入れ、発達の連続性を考慮した「共通カリキュラム」を基に保育をしている。発達に必要な経験を積み重ねることで、人とかかわる楽しさや大切さに気づいたり、基本的な生活習慣を身に付けたりすることができた。保護者のニーズに応じながら連携をとることで、安心して預けられる園の運営につながり、就労と子育ての両立を目指す保護者支援ができた。

[課題・改善点]

・保育士の臨時職員を確保することに苦慮している。

入所希望児童の受け入れを可能な限り行っているが、0歳児に関しては例年年度末にかけて数名の待機児童が発生する。また、年々保育需要は増加傾向にあり、今後の保育需要の伸びに対応するためにも施設整備計画が重要となる。

[自己評価判断理由] 担当課長

保育の需要は年々増加しており、待機児童を無くすべく臨時職員の確保が課題となっているが、健全な保育所の運営と、共通カリキュラムによる充実した保育を実施していることで、保護者が安心して働くことができる環境を整えることができた。

[教育長又は教育部長評価]

本市独自の幼保共通カリキュラムは高い評価を得ており、就学前児童に均一した保育が行なわれたことは評価に値する。少子化傾向のなか、本市では低年齢児の保育ニーズが高まっており、今後は子ども子育て支援事業計画を充足する施設整備と職員確保について、検討を要する。

自己評価

A

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通じた豊かな心の育成
事業名	2	幼稚園管理運営事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

教育内容の充実と教育環境の整備に努め、市内5か所で4、5歳児を対象とした幼稚園を運営する。

[目的] 対象： 公立の幼稚園児、公立幼稚園
(何を・誰を)

意図： 園児が安心して幼稚園に通い、学べる環境づくりを推進する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	36,293
財源	
使用料及び手数料	12,130
その他	4,442
一般財源	19,721

[事務事業の活動実績]

○入園児童数 [平成27年3月1日現在]

幼稚園名	4歳児	5歳児	合計
五百川幼保総合施設	50人	53人	103人
岩根幼稚園	37人	67人	104人
糠沢幼稚園	20人	28人	48人
和田幼稚園	16人	14人	30人
白岩幼稚園	25人	31人	56人
合計	148人	193人	341人

○幼稚園保育料の減免措置

*通常減免額 (上段：園児数、下段：減免額) 単位：人、円

階層区分	減免対象園児			計
	第1子	第2子	第3子以降	
市民税非課税世帯及び 市民税所得割非課税世帯	36 588,286	23 559,344	2 96,000	61 1,243,630
上記区分以外の世帯	0 0	0 0	0 0	0 0
合計	36 588,286	23 559,344	2 96,000	61 1,243,630

*市独自減免額 (26年度) (上段：園児数、下段：減免額) 単位：人、円

階層区分	減免対象園児			計
	第1子	第2子	第3子以降	
市民税非課税世帯及び 市民税所得割非課税世帯	36 1,143,714	23 508,656	0 0	59 1,652,370
上記区分以外の世帯	18 852,000	10 480,000	1 48,000	29 1,380,000
合計	54 1,995,714	33 988,656	1 48,000	88 3,032,370

低所得者及び、保育所・幼稚園に同時に通所通園する場合の第2子以降がいる世帯の保護者の負担軽減を図るため、幼稚園保育料の減免を行った。

○すこやか子育て相談室

幼稚園・保育所に通わないで、自宅で子育てをしている保護者の悩みや困りごとについての相談に応じるため、「すこやか子育て相談室」を実施している。

また、通常の保育状況を参観し、子育ての参考にってもらう保育参観や、季節の行事へ参加を呼びかけ、幼稚園・保育所へ通わない世帯への支援を行った。

[事業の成果]

4歳から就学前まで受け入れ、共通カリキュラムを基に保育している。
個や学級に応じた保育を実践することで、規範意識や話を聞く態度が身に付き、スムーズな就学につながることができた。

[課題・改善点]

幼稚園教諭の臨時職員を確保することに苦慮している。
各園により、園児数に差が大きい。特に白沢地区においては、少子化により入所人数が減少傾向にあり、施設（保育室）が余剰となっている。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

健全な幼稚園運営を行い、共通カリキュラムにより保育を実施している。その中で、生活に必要な経験を積み重ね、基礎的な生活習慣や人とかかわる力、健全な心身の育成ができ、スムーズな就学につなげられた。

[教育長又は教育部長評価]

職員確保（臨時職員）に苦慮しているが、幼稚園教育の目的は達せられるとともに、幼保共通カリキュラムによる就学前児童へ均一した保育が行われたことは評価に値する。

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通じた豊かな心の育成
事業名	3	幼稚園読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

幼稚園児に絵本の読み聞かせや貸し出しを行い、お話の世界にたくさん触れさせるなど、読書習慣の形成を支援する。

[目的]

対象： 市立幼稚園の園児
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活(事業のねらい、対象をどう変えるのか)に必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	125
財源	
一般財源	125

[事務事業の活動実績]

幼稚園児に絵本の読み聞かせなどで活用した。

幼稚園名	購入冊数	貸し出し冊数
五百川幼保総合施設	3 2 冊	3,800冊
岩根幼稚園	2 5 冊	4,876冊
糠沢幼稚園	2 2 冊	1,799冊
和田幼稚園	3 0 冊	960冊
白岩幼稚園	2 7 冊	1,680冊

[事業の成果]

読み聞かせや、定期的な貸し出しを行うことにより、読書に対する興味を深め読書習慣を身につけ、日常生活に必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養えた。また保護者からは週末の絵本貸出により、子どもが本に興味を持ち、読み聞かせをする機会が増えるので大変良いと好評である。

[課題・改善点]

特になし

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

幼児期の段階から、読み聞かせ等を行うことにより、生涯にわたり本に親しみ読書習慣を身に付ける機会を提供することができた。さらに、週末の絵本をを貸し出しを通し、同じ時間を共有することで、親子の絆を深め心の安心にもつながった。

[教育長又は教育部長評価]

本宮市子ども読書活動推進計画基本方針1「子どもが読書に親しむ機会の提供と充実」に基づき、読書環境が充実するとともに、日常的な読み聞かせと週末の定期的貸し出しを継続することで、次世代を担う心豊かで創造性あふれる人材育成に寄与したと評価する。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通した豊かな心の育成
事業名	4	ブックスタート事業
担当課		生涯学習センター（白沢公民館）

[事業概要]

10か月検診の際に、図書館司書が親子に対して読み聞かせを行うとともに、ブックスタートの概要説明を行い、読書活動啓蒙のために2冊の絵本とパンフレット（バッグ付き）のプレゼントを実施する。

[目的]

対象： 10か月児・保護者
(何を・誰を)
 意図： 子どもに乳児期から絵本による語りかけを行い、子供の発達に合わせた本との関わりを持たせる。保護者に対しては、成長に合わせた読書の必要性を理解してもらう。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	579
財源	
一般財源	579

[事務事業の活動実績]

○10か月検診に合わせて、毎月1回実施した。

開催日	人数(人)	会場
4月16日(水)	19	えぼか
5月22日(木)	19	
6月12日(木)	13	
7月30日(水)	20	
8月27日(水)	26	
9月18日(木)	20	
10月27日(月)	17	
11月26日(水)	24	
12月17日(水)	20	
1月29日(木)	27	
2月26日(木)	30	
3月25日(水)	20	
合計	255	

[事業の成果]

当該事業を本宮市では合併当初から実施しており、全国的には1741団体のうち881団体が実施している(2014年6月30日現在 NP0ブックスタート調べ)。事業の結果、親子の絆が深まり、喜びが感じられる子育てにつながっていると推測される。さらに図書館の利用機会増加への効果も期待できる。

[課題・改善点]

ブックスタート事業は引き続き事業を展開する必要がある。
 関連事業として、ブックスタート後のフォローアップとして行っている1歳6か月や3歳児健診の読み聞かせの際、絵本配布を行うことについて、平成26年度に検討した結果、平成27年度から3歳児健診の読み聞かせの際に絵本配布を実施をしている。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

合併当時から実施している全国的にも先進的な取り組みであり、親が子どもに対する読書の重要性を認識する機会となり、また、子どもに読み聞かせをする良い機会となっている。

[教育長又は教育部長評価]

子どもが初めて本と出会い、親の読み聞かせのもとで、親との絆を深めるとともに、感受性が豊かで、本に親しむ子どもへの第一歩につながるものと評価する。

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	2	体を動かす遊びを通じた健やかな体の育成
事業名	1	保育所入所児健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動を通し、豊かな心と健全な体を育むための特色を生かした健康づくり活動を行う。

[目的] 対象： 保育所幼児
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 楽しく運動し健康増進を図る。

事業費・財源内訳	
決算額	千円
	400
財源	
一般財源	400

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金をPTA団体に一律50,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

○活動内容

公立保育所	主な活動
第1保育所	・親子で参加できる体操教室を開催。親子で楽しく体を動かす事ができた。 ・人形劇団を招聘し、鑑賞会を行い親子の触れ合いの機会を設ける事ができた。
第2保育所	・食育についてのお話講和会を開催し、実験やパネルシアター等視覚に訴えることで食への関心を深めた。 ・わらべ歌遊びを行い言葉のやりとりやふれあいの動作に興味を持つ事ができた。
第3保育所	・わらべ歌教室を開催し、わらべうたの心地よさを感じながら、楽しく体を動かす事ができた。 ・水泳教室を実施し、友達と触れ合いながら水に親しむことができた。
五百川幼保総合施設	・講師を招聘し親子運動教室を開催した。親子で楽しめる遊びで、親子の触れ合いを図る良い機会となった。 ・人形劇団を招聘し食への関心を高めることが出来た。
白沢保育所	・わらべ歌教室を通して、親子で息を合わせながら表現する楽しさを体験できた。 ・食育講座を開催し、食の大切さを学ぶ機会が持てた。

私立保育所	主な活動
もとみや幼児の家	・健康づくり講演会を開催し、身体づくりについて学ぶことが出来た。 ・食育のため小さな畑を作り、作る喜びと食べる楽しさを学ぶことが出来た。
どんぐり保育園	・カラーマットを購入し、屋内活動の充実を図り、また、遊びを通して体力づくりの増進を図ることができた。
光明保育園	・屋内用鉄棒等の設備を更新し、体力向上及び健康増進を図ることができた。

※各施設の運営方針に基づき、健康づくり講演会や食育推進、体力づくり推進事業などを企画運営するため、一律の補助額を配当し、活動の一助としている。

[事業の成果]

放射線などの影響を心配する保護者の不安を考慮した屋内活動の充実が図られた。また、通常保育でも有効である遊びを通じた体力づくりを実施することができた。

乳幼児については、親子の触れ合いを大切にし、心の健康を重点的に活動することができた。

[課題・改善点]

健康増進のための運動については、イベント的な事業にならないように、継続して実施していくよう指導者が技術の習得に努めていく。

自己評価	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 各施設でそれぞれ特色を生かした、健康増進や体力向上のための事業や運動用具の購入など環境整備等も行っており、子どもたちの「生きる力」につながっている。</p>
A	<p>[教育長又は教育部長評価] 東日本大震災以降、子どもたちの体力低下は県内の大きな課題となっている。本事業により体を動かすこと、食育を实践すること、環境を整えること等、施設毎に特色のある健康づくりに寄与したものと評価する。</p>

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	2	体を動かす遊びを通した健やかな体の育成
事業名	2	幼稚園児健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動を通し、豊かな心と健全な身体を育むための特色を生かした健康づくり活動を支援する。

[目的] 対象： 幼稚園児
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 楽しく運動し健康づくりを行う。

事業費・財源内訳
決算額 千円

300

財源
一般財源

300

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を幼稚園PTA団体に一律50,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

○活動内容

公立幼稚園	主な活動内容
五百川幼保総合施設	・講師を迎えての親子体操教室を実施。親子で楽しめる遊びを学び、体を動かす楽しさを味わったり、親子のふれあいを図ったりした。 ・園児のみでの体操教室を実施。体を使った動きを学んだり、器具を用いた動きを体験したりすることで、運動遊びの基礎作りにつながった。
岩根幼稚園	・歯科衛生士を招き、保護者が幼児への実技指導を行った。 ・体操講師を招き、親子で一緒に運動し触れ合いの時間を過ごせた。 ・野菜、果物に関する内容の絵本を購入。食材への興味関心をもった。
糠沢幼稚園	・認定食育講師を招き、幼児は食に興味関心を持ち、保護者は食品添加物の話を聞き、食の安全の意識を高めた。また、食事のマナーを学んだ。 ・運動指導講師を招き、親子運動教室を開催。体力づくりのために、休日の親子運動遊びを促すことができた。
和田幼稚園	・わらべ歌教室を開催し、楽しんで身体を動かす事や、ルールを理解して遊ぶ面白さを味わうことが出来た。 ・水泳教師を開催し、水の中で動いたり、友達と触れ合ったりしながら水に親しむことができ、水泳能力向上に繋がった。
白岩幼稚園	・わらべ歌教室を開催し、わらべうたの心地よさを感じながら、皆で手をつないで歌ったり等で楽しんで身体を動かすことができた。 ・体操教室を実施し、身体を動かすことの楽しさと心地よさを味わうことができた。

私立幼稚園	主な活動内容
本宮幼稚園	・健康増進のため、歯科検診等の充実と、歯磨き教室を実施したことにより、歯科衛生の重要と正しい歯磨きを学ぶことができた。

※各施設の運営方針に基づき、健康づくり講演会や食育推進、体力づくり推進事業などを企画運営するため、一律の補助額を配当し、活動の一助としている。

[事業の成果]

放射線などの影響を心配する保護者の不安を考慮した屋内活動の充実が図られた。また、通常保育でも有効である遊びを通した体力づくりを実施することができた。

発達の段階に合わせた体を使った健康づくりから、歯科の重要性等、健康づくりができた。

[課題・改善点]

健康増進のための運動については、イベント的な事業にならないように、継続して実施していくよう指導者が技術の習得に努めていく。

<table border="1"><tr><td>自己評価</td></tr><tr><td>A</td></tr></table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p>各施設でそれぞれ特色を生かした、健康増進や体力向上のための事業を実施している。さらに、食の習慣や歯磨きの習慣など、基本的な生活習慣を幼児期から教育するための事業を実施しており、子どもたちの「生きる力」につながっている。</p>
	自己評価		
A			
<p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>東日本大震災以降、子どもたちの体力低下は県内の大きな課題となっている。本事業により体を動かすこと、親とともに遊ぶこと、口腔衛生からの取り組み等、施設毎の特色ある健康づくりに寄与したものと評価する。</p>			

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	3	一人一人の育ちにあった教育の推進
事業名	1	障がい児保育事業（保育所）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

発達障がい児等を受け入れ、児童の心身の発達に合わせた保育援助を行う。

[目的] 対象： 就労等により家庭で十分保育することができない、集団保育可能な就
(何を・誰を) 学前の障がい児の保護者
 意図： 障がい児担当の保育士を配置し、障がいの程度に見合った保育を行う
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) ことで、障がい児の心身の発達を促し、保護者の育児不安解消や負担軽減を図る。

事業費・財源内訳	千円
決算額	12,995
財源	
その他	56
一般財源	12,939

[事務事業の活動実績]

担当保育士を配置し、障がいの程度に見合った保育を行い、保護者との連携を図り、障がい児保育を行った。

○障がい児保育児童（実人数）

保育所	第1保育所	第2保育所	第3保育所	五百川保育所部	白沢保育所	合計
人数	7	2	3	4	3	19

[事業の成果]

障がい児担当の保育士を施設の児童数及び、対象児童の数により配置し、障がいの程度に見合った保育を行い、また、保護者との連携を図り育児不安の解消や負担軽減を図るなどにより、障がい児の保護者の子育てを支援できた。

[課題・改善点]

対象年齢が低年齢であり、入所の段階で障害児と判断するのが非常に難しい。また、発達途上であるため、保護者の理解を得るのが難しい。

保健担当部署、福祉担当部署と連携を深め、入所児童への適切な処遇はもちろん、小学校入学等の際の情報伝達等を心がけていく必要がある。

保育士不足により十分な人員配置ができない。

[自己評価判断理由] 担当課長

保育士不足により十分な配置はできなかったが、保育士同士の連携により個々の成長を促すことができた。また、保護者と密に連絡調整を図ることで、保護者の理解と、就学への不安解消など家族への支援にもつながった。

[教育長又は教育部長評価]

医療、福祉、保健との連携を図り、小学校のインクルーシブ教育へつなげていくことが期待されるが、共生社会形成に向けて、本人・保護者のニーズに応じた支援環境を概ね整えることができたものと評価する。

自己評価

A

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	1	一時保育事業（保育所）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

保護者の勤務形態、傷病、出産等により一時的に家庭での保育が困難となる児童について一時的に保育所で預かる。

[目的]

対象： 一時的に家庭保育が困難となる就学前児童の保護者
(何を・誰を)
 意図： 保護者の勤務形態、傷病、出産等により一時的に家庭での保育が困難となる児童を、一時的に保育所で預かることにより、保護者の子育て(事業のねらい、対象をどう変えるのか)を支援する。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	7,313
財源	
国庫支出金	1,473
県支出金	1,473
その他	1,968
一般財源	2,399

[事務事業の活動実績]

5か所の市立保育所のうち2施設（五百川幼保総合施設、白沢保育所）において、一時保育を実施した。

○一時保育利用児童（延人数）

月	利用人数		計
	五百川幼保総合施設	白沢保育所	
4月	41	6	47
5月	88	21	109
6月	113	26	139
7月	123	27	150
8月	106	26	132
9月	149	53	202
10月	137	60	197
11月	133	62	195
12月	114	62	176
1月	113	58	171
2月	142	67	209
3月	149	63	212
合計	1,408	531	1,939

[事業の成果]

子育て世帯の休養等、一時的に家庭での保育が困難になる幼児を保育するといった、多様な保育ニーズに応えるため、一時保育を適切に実施したことにより、保護者の負担軽減につながった。
 集団生活経験がない幼児が、集団生活を行うことにより、発達や気付きを促すことができた。

[課題・改善点]

増える傾向にある利用希望に対して、引き続き対応していきたい。
 私的事由による利用者が増加している。
 ごく少数ではあるが、食物アレルギーを持った児童の受入が出来ないケースが発生したので、弁当等の対応により受入できるよう努力したい。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

一部食物アレルギーの児童の受け入れはできなかったが、緊急的に保育を必要とした保護者と私的利用（リフレッシュ等）のための保護者の利用が年々増加しており、保護者の負担軽減が図られた。

[教育長又は教育部長評価]

一号認定児であっても、一時的な保育サービスがあって社会参画が可能となる実態を踏まえ、効果的に事業が展開できたと評価する。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	2	延長保育事業（保育所）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

保護者の就労形態の多様化に伴い、保育時間の延長を希望する保護者に対して延長保育を実施する。

[目的]

対象： 家庭で十分保育することができない就学前の児童の保護者
(何を・誰を)

意図： 保育士を配置して延長保育を実施することで、保護者が安心して就労
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) できるようにする。

事業費・財源内訳
 決算額 千円

24,039

財源
 その他

1,640

一般財源

22,399

[事務事業の活動実績]

5か所の市立保育所において、午後7時まで延長保育を実施した。

○延長保育延べ登録児童数
 617名

[事業の成果]

保護者の就労形態の多様化に対応するため、保護者の勤務状況に応じて、午前7時からの早朝延長、午後6時から7時までの遅延長保育の取り組みを行った。これにより、保護者の就労時間に対し幅が持てるようになった。また、申込時は、就労時間をチェックした上で、必要ありと認められる者に対してはすべて対応している。

[課題・改善点]

なし

[自己評価判断理由] 担当課長

延長保育が必要とされる全ての保護者に対して、就労時間に応じた保育を実施している。保護者が安心して就労できる環境を整えることができた。

[教育長又は教育部長評価]

就労環境の多様化及び女性の社会参画が進む中、早朝及び長時間保育ニーズも高いものがあり、延長保育により保育を必要とする幼児はもとより、保護者の安心に寄与できたと評価する。

自己評価

A

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	3	預かり保育事業（幼稚園）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

幼稚園の教育課程に係る教育時間終了後に在園児を保育する。

[目的]

対象： 在園児及び保護者
(何を・誰を)

意図： 通常保育より延長した保育により更なる幼児教育の推進及び、家庭での育児が困難な世帯に対し子育ての支援を行う。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳
決算額 千円

24,216

財源

使用料及び手数料
9,411

その他

4,608

一般財源

10,197

[事務事業の活動実績]

5か所の市立幼稚園において、午後7時まで預かり保育を実施した。

○実施状況

幼稚園名	登録園児数	利用延べ園児数	保育時間
五百川幼保総合施設	66人	8,992人	【基本利用】 ・通常保育後～午後6時 (土曜日・長期休業期間は午前7時～午後6時) 【延長利用】 ・午後6時～午後7時
岩根幼稚園	76人	10,259人	
糠沢幼稚園	25人	3,765人	
和田幼稚園	17人	2,426人	
白岩幼稚園	30人	4,818人	
合計	214人	30,260人	

[事業の成果]

通常の幼稚園教育の時間（午後1時）を越え、保育に欠ける要件を有する園児を預かることにより、保育所と同じく、保護者の就労支援等につながり、また、子育て支援の一助となった。

[課題・改善点]

臨時保育士の雇用形態が、遅番固定（19時終業）の勤務形態になっているため、人が集まらず運営に苦慮している。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

幼稚園に通う園児の保護者の勤務状況に応じて預かり保育を行うことにより、保護者が安心して就労できる環境を整えることができた。

[教育長又は教育部長評価]

保育所の一時保育と同様に、就労環境と子育て環境の充実に寄与したものと評価する。なお、慢性的な臨時保育士の不足は幼稚園と保育所が抱える共通課題であり、次年度に向けて確保対策を検討していく必要がある。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	4	子育て支援センター事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

子育て世帯がつどう場を設け、子育て世帯の交流、子育て等に関する相談、援助、地域の子育て関連情報の提供などを行う。

[目的] 対象： 施設入所、入園していない子育て世帯
(何を・誰を)
 意図： 子育て世帯の悩みや不安を解消する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳	
決算額	千円
	2,344
財源	
国庫支出金	1,163
県支出金	1,163
その他	4
一般財源	14

[事務事業の活動実績]

○活動内容

子育て支援センター月別利用人数

月	保護者数	幼児数
4月	36	41
5月	47	67
6月	69	77
7月	56	77
8月	39	45
9月	78	100
10月	60	78
11月	63	110
12月	38	48
1月	48	59
2月	63	85
3月	59	75
合計	656	862

[事業の成果]

保育経験の豊富な保育士が担当し、就園前児童による「プレ幼稚園」の実施や「子育て相談」を行って、子育てに対する不安解消が図られた。また、「平日解放」を行うことにより子育て世代の交流ができ、家庭保育を行っている保護者の負担軽減に寄与できた。
 リピーターが多いことから、子育てに不安を持つ保護者の安心の場になっている。

[課題・改善点]

回覧等で周知を図ってはいるが、市全体に事業内容が浸透しているわけではないので、FMに Motto コム・広報誌等でもPRするとともに、保健師等と連携し事業を推進したい。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

家庭保育を行っている保護者が、子育ての情報発信や悩み等を相談できる環境を整えた子育て支援センターを利用することで、育児への支援や不安解消をすることができた。また、プレ幼稚園や集団での遊びを経験することで幼児期の発達を促し、安心して就学できる環境を整えることができた。

[教育長又は教育部長評価]

子育て支援センター事業が徐々にではあるが子育て世代に浸透し、利用者数が増加している。子育て中の母親の交流や子育て相談及び就園前児童の集団生活への適応力など多くの子育て世帯の不安解消に寄与したものと評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	1	キャリア教育推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

児童、生徒が自らの将来像を考え、勤労観を養う等の取組みを行うため、講演等を行う。

[目的]

対象： 市内小中学校児童生徒
(何を・誰を)

意図： 児童生徒が将来への夢や職業を思い描き、その実現に向けて努力する
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) ことができるようにする。

事業費・財源内訳 決算額	千円
	2,749
財源	
県支出金	2,097
その他	500
一般財源	152

[事務事業の活動実績]

- (1) 保育所・幼稚園から中学校全年代
 - ・基本的な生活習慣の育成として「あいさつ運動」の定着化を図った。
- (2) 小学校5年生・中学2年生
 - ・日本サッカー協会事業によるスポーツ選手を招聘し、夢や挫折、目標を学ぶ教室を開催した。
 - 実施期間：平成26年11月7日から平成27年1月27日
延べ22クラス実施
- (3) 中学校3年生
 - ・将来の進路決定の一助とするため大学教授等を講師に迎えキャリア教育講演会を開催した。
 - 日時：平成26年7月17日(木) 午後2時より
 - 講師：畠山 重篤 (NPO法人 森は海の恋人 理事長)
 - 演題：森は海の恋人 ― 人の心に木を植える ―

[事業の成果]

招聘した講師それぞれの、今に至るまでの体験談等(挫折や成功話)が傾聴でき、児童生徒の将来への夢や職業を思い描くための一助とすることができた。

[課題・改善点]

今後も、このキャリア教育を、児童生徒等にとってより有意義で魅力ある内容にするための講師の選定をしていきたい。

<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> </tr> <tr> <td>A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 スポーツ選手による「夢の教室」の授業や、「キャリア教育講演会」の開催等により、将来の夢や職業への希望と目標を考える機会と、挫折を乗り越えることの大切さ等学ぶことができた。</p>
	自己評価		
A			
<p>[教育長又は教育部長評価] 教育振興基本計画に掲げる本市が目指す子ども像「自分のよさや可能性を発見し、夢みる力が強い子ども」実現のため、児童生徒が社会と将来に夢を持ち、勉学に励む人生訓を身につけるのに大きく関与できたものと評価する。</p>			

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	2	体験活動促進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

○スキー体験教室の実施

[目的] 対象： 児童
(何を・誰を)

意図： 屋外運動の機会を創出し、放射線を気にすることで生じるストレスや運動不足を解消する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	9,935
財源	
県支出金	2,373
その他	2,000
一般財源	5,562

[事務事業の活動実績]

・屋外運動機会が減る冬場に、スキー体験教室を開催し、震災により屋外運動の機会が減っている児童等にその機会を提供した。

○スキー体験教室

実施期間：平成27年1月～2月

対象：小学3年生～6年生

実施場所：あだたら高原スキー場

[事業の成果]

教育委員会においてスキー体験教室実施の機会を設け、各学校の実施計画により実施した。冬場の屋外運動機会を創出し運動不足解消や、ストレス解消の一助とすることができた。

[課題・改善点]

今後は、スキー体験教室に限らず、体力向上とストレス解消等を図る事業、もしくは手法を考えていく。

[自己評価判断理由] 担当課長

東日本大震災以降、特に小学生においては、体力の低下が懸念されている中で、スキー体験教室を実施し冬期間に屋外で運動することで、体力向上とストレス解消等を図ることができた。

[教育長又は教育部長評価]

放射性物質の不安から屋外運動が制限された結果、特に小学生の体力低下が指摘されているなか、冬期間のスキー教室は児童の心身のリフレッシュと体力向上に寄与できたものと評価する。

自己評価

A

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	3	小学校読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

学校図書館における学習活動を充実するため、図書を購入する。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活
(事業のねらい、対象に必要知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。
をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	2,048
財源	
その他	185
一般財源	1,863

[事務事業の活動実績]

● 学校図書整備状況

学校名	図書購入等冊数	廃棄冊数	図書館保有冊数
本宮小	335	0	7,705
本宮まゆみ小	334	0	9,035
五百川小	530	521	4,741
岩根小	570	131	6,022
糠沢小	200	0	5,070
和田小	125	0	3,453
白岩小	212	0	4,992

(平成27年3月31日現在)

● 学校図書貸出状況

学校名	貸出冊数
本宮小	4,564
本宮まゆみ小	4,537
五百川小	1,580
岩根小	5,554
糠沢小	2,997
和田小	1,255
白岩小	3,685

※五百川小学校については、校舎耐震化工事のため11月末まで図書貸出業務は行わなかった。
(その間は、移動図書館、及びドリーム文庫を活用し読書活動を継続した)

● 学校図書館司書レファレンス対応件数

相談件数 40件
紹介・貸出件数 813冊

[事業の成果]

図書館ネットワークシステムの活用によりスムーズな貸出業務が行われた。
しらさわ夢図書館事業の、ドリーム文庫の貸出や、出張おはなし会による本の読み聞かせ、ブックトークによる児童への本の紹介等で、本に接し親しむ機会を設け利用拡大を図った。
また、本宮第二中学校区に1名配置された学校図書館司書と連携し、貸出、照会等、図書館業務の充実を図った。

[課題・改善点]

図書の充足率は約8割であり、今後も新刊等の購入継続を要する。ただし、図書の選定は本に接する機会を増やすため、学校図書館司書と連携し学校の現状に応じた十分な検討を要する。

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">自己評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 5px;">A</div>	<p>【自己評価判断理由】 担当課長</p> <p>読書習慣の向上と豊かな感性を養うため、充足率10割を目標に計画的に図書を購入し充実を図っている。図書館司書による読み聞かせや本の紹介をすることで、本に興味を持たせ多くの児童に貸し出しをすることができた。</p> <p>【教育長又は教育部長評価】</p> <p>例年の継続的な図書購入により、図書も8割の充足率を達成できたとともにボランティアを含む読み聞かせ、朝読及び家読の読書環境の整備・充実に寄与したもので、評価Aに値するものである。</p>
--	--

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	4	中学校読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

学校図書館における学習活動を充実するため、図書を購入する。

[目的]

対象： 中学校生徒
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) に必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	3,440
財源	
一般財源	3,440

[事務事業の活動実績]

●学校図書整備状況

学校名	図書購入等冊数	廃棄冊数	図書館保有冊数
本宮第一中学校	464	0	10,050
本宮第二中学校	439	0	6,250
白沢中学校	312	0	4,243

(平成27年3月31日現在)

●学校図書貸出状況

学校名	貸出冊数
本宮第一中学校	506
本宮第二中学校	575
白沢中学校	608

●学校図書館司書レファレンス対応件数

相談件数 16件
紹介・貸出件数 166冊

[事業の成果]

図書館ネットワークシステムの活用によりスムーズな貸出業務が行われた。
しらすわ夢図書館事業の、ドリーム文庫の貸出や、ブックトークによる生徒への本の紹介等を行うことで、本に接し親しむ機会を設け利用拡大を図った。
また、今年度より1名配置された学校図書館司書と連携し、図書の貸出、照会等、図書館業務の充実を図った。

[課題・改善点]

図書の充足率は約7割であり、今後も新刊等の購入を継続し充足率の向上を図っていく必要がある。ただし、図書の選定は、本に接する機会を増やすため、学校図書館司書と連携し学校の現状に応じた十分な検討を要する。また、本の貸出しについても学校図書館司書と連携し、図書館図書利用促進を図っていく必要がある。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

読書習慣の向上と豊かな感性を養うため、充足率10割を目標に計画的に図書を購入しており、昨年に比べ充足率が1割アップした。さらに、学校図書館司書との連携により図書利用者も増えており、読書に対する興味が高まっている。

[教育長又は教育部長評価]

例年の継続的な図書購入により、平成30年度充足率10割という目標に向かって着実に前進している。学校図書館司書の配置と図書館ネットワークの活用により図書利用が徐々に増えてきており評価に値する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	5	小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

安達地方音楽コンクール・県小学校音楽祭等への参加や、各種文集コンクール等へ作品の出品を行う。

[目的] 対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 文化活動を通して情感あふれる表現や鑑賞の基礎となる力を身につける。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,702
財源	
一般財源	1,702

[事務事業の活動実績]

安達地方音楽コンクール等への参加、各種作品出品・出展に係る諸経費や負担金の支援を行った。

[主な実績]

●音楽コンクール

①安達地区小中学校音楽祭

【第1部合唱】(8月17日：二本松市民会館)

- ・本宮まゆみ小学校：金賞
- ・本宮小学校：銀賞
- ・岩根小学校：銀賞

②安達地区小中学校音楽祭

【第2部合奏】(8月19日：二本松市民会館)

- ・和田小学校：銀賞
- ・白岩小学校：金賞

③福島県下小・中学校音楽祭(8月26日：県文化センター)

- ・本宮まゆみ小学校：銀賞

④平成26年度ソロ&アンサンブルコンテスト全国大会(11月9日：千葉県文化会館)

- ・白岩小学校 アンサンブル部門：金賞

●作品出展

全国児童才能開発コンテスト

- ・糠沢小学校 5年 太田桃花 科学部門：全国都道府県教育委員長協議会会長賞

[事業の成果]

各学校の積極的な参加により優秀な成績を収めることができた。

[課題・改善点]

各学校の特色を活かすことのできる支援体制を継続する。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

文化芸術等の各種大会に積極的に参加できるよう、経費等の支援を行ったことにより参加を促し、さらに、優秀な成績を収めることができた。

[教育長又は教育部長評価]

小規模校でも全校あげて練習に取り組み、大会に参加したことを大いに評価する。特に、全国児童才能開発コンテストにおいて優秀な成績を収めており、今後とも各種大会に積極的に参加することを期待する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	6	中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

安達地方音楽コンクール・県音楽コンクール等への参加や、中学校英語弁論大会への参加、各種文集コンクール等への出品を行う。

[目的]

対象： 中学校生徒
(何を・誰を)
 意図： 文化活動を通して情感あふれる表現や鑑賞の基礎となる力を身につける。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,031
財源	
一般財源	1,031

[事務事業の活動実績]

安達地方音楽コンクールや文集コンクールへの参加に係る諸経費や負担金の支援を行った。

[主な実績]

●音楽コンクール等

①県吹奏楽コンクール県北支部大会（7月12日：福島県文化センター）

- ・本宮第一中学校：銀賞
- ・本宮第二中学校：銀賞
- ・白沢中学校：銅賞

②安達地区小中学校音楽祭

【第1部合唱】（8月28日：二本松市民会館）

- ・白沢中学校：銀賞

【第2部合奏】（9月17日：二本松市民会館）

- ・本宮第一中学校：金賞
- ・本宮第二中学校：銀賞
- ・白沢中学校：銀賞

③県アンサンブルコンテスト県北支部大会（12月14日：県文化センター）

- ・本宮第一中学校：銀賞（1団体）・銅賞（1団体）
- ・本宮第二中学校：銀賞（2団体）・銅賞（1団体）
- ・白沢中学校：銀賞（1団体）・銅賞（2団体）

●英語弁論大会

①安達支部英語弁論大会（9月2日：しらさわカルチャーセンター）

- ・本宮第一中学校（6名）：暗唱の部・銀賞2名 創作の部・金賞1名 スキットの部・1位 3人1組
- ・本宮第二中学校（4名）：暗唱の部・金賞1名 銀賞1名 創作の部・銀賞2名
- ・白沢中学校（4名）：暗唱の部・銀賞2名 創作の部・銀賞2名

[事業の成果]

各学校の積極的な参加により優秀な成績を収めることができた。

[課題・改善点]

各学校の特色を活かすことのできる支援体制を継続する。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

文化芸術等の各種大会に積極的に参加できるよう、経費等の支援を行ったことにより参加を促し、さらに、優秀な成績を収めることができた。

[教育長又は教育部長評価]

全中学校がそろってコンクールに出場し活躍したことを評価する。今後も、各種大会への積極的な参加に期待したい。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	7	スクールソーシャルワーカー（SSW）配置事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

2名のスクールソーシャルワーカー（SSW）を配置し、不登校やいじめ、暴力行為など子どもの深刻な問題行動や虐待、育児放棄及び経済的な困窮家庭などの保護者や子どもに対し、専門的な見地から学校と関係機関の仲介、個々の状況に応じた相談、助言を行う。

[目的] 対象： 小中学校児童生徒、保護者、教職員
（何を・誰を）

意図： 児童生徒や保護者には、SSWにより悩みや不安、ストレスなどを和らげ、心の安定を図る。また、教員に関してはSSWの専門的なコンサルテーションにより問題解決の糸口を共に探る。
（事業のねらい、対象をどう変えるのか）

事業費・財源内訳
 決算額 千円

4,334
 財源
 国庫支出金
 4,331
 一般財源

3

[事務事業の活動実績]

教育委員会に専門知識を持つSSWを配置し、市内各幼稚園・保育所・小学校・中学校を巡回し、不登校・いじめなどを含めた児童生徒等が抱える課題解決に資した。

諸問題								計
養育環境	長期欠席	いじめ	暴力行為	貧困	障がい	震災関係	その他1	
186	51	4	8	35	188	20	41	533

現状				計
課題解決	経過良好	支援途中	その他2	
34	108	125	26	293

校種別				計
就学前	小学校	中学校	その他3	
93	129	70	1	293

<項目説明>

○諸問題（複数該当）

養育環境…児童虐待、家族の情緒不安定、家庭内不和、DV、多子世帯、ハイリスク家庭など含む

長期欠席…30日以上欠席者のほか、登校しぶり、別室登校など含む

暴力行為…自傷他傷を含む

貧困 …経済的困難さが諸問題にも影響を及ぼすもの

障がい …知的・身体・情緒：発達・学習などの障害及びその疑いを含む

震災関係…避難家庭及び震災の影響により諸問題に影響を及ぼしたことが明確なもの

その他1 …いじめ以外の友人関係、教職員との関係、非行などを含む

○現状

課題解決…一定程度安定して学校等での生活を送ることができ、主訴であった課題の解決が図れたもの

経過良好…支援は継続しているものの、家庭、学校、関係機関等の尽力により、課題解決に向けた取り組みが順調に行われているもの

支援途中…支援を継続し、家庭、学校、関係機関等との協働をさらに図っていく必要があるもの

その他2 …卒業や転居により、支援が中断せざるを得ないもの

○校種別

就学前 …市内外の公立私立幼稚園・保育所・療育機関に通う幼児

その他3 …施設入所及び卒業後の生徒

[事業の成果]

勤務形態である市教育委員会配置・巡回型を継続し、専門性や役割(臨床心理士・社会福祉士/従来対応。震災対応)を行かした活動の充実を図った。特に、直接子ども・家庭・教員を支援する実践だけでなく、校内ケース会議の開催や校内支援体制の確立、長期休暇中の居場所作りなどの実践を行った。

教職員、児童生徒と保護者への関わりの中で、課題・問題を関係者間で共通認識し、関係機関と連携を図りながら、多角的な支援につなげることが出来た。

早期発見・早期療育及び啓発・予防の視点から、就学相談を適切に行った。これにより、就学後に起こりうるであろう問題に未然に対応し、また、実際の支援についてもより円滑に進めることを図った。

[課題・改善点]

相談案件の複雑化や、関係者の異動(教職員)に伴う相談支援体制の確立を、さらに目指していく必要がある。支援を必要とする児童生徒等の個々の案件は多種多様であり、潜在化、及び長期化することも危惧されるため、今後も支援方法等について検討する機会をより多く設け、関係各機関と共に連携できる体制を継続していきたい。

[自己評価判断理由] 担当課長

児童生徒や保護者の抱える問題の解決に向けて、ケースに応じた支援を円滑に進めることができ、就学にもつながっている。臨時職員1人を雇用し2人体制で支援をし長期化・複雑化している諸問題にも対応することができた。

[教育長又は教育部長評価]

児童・生徒が抱える問題は多岐にわたり、保護者や教職員の関わりだけでは解決に結びつかないケースも多くある。このような個々のケースに応じ、傾聴し、寄り添い、最適な関係機関へつなぐSSWの業務成果は特筆に値するものと評価する。

自己評価

A

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	8	学校復帰支援事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

さまざまな理由で登校できない児童生徒に対して、学習指導や自立活動を支援することにより、生活や学習に取り組む態度や意欲を高めることを目的とする。支援方法として「適応指導教室」を開催する。また、Q-Uテストを実施し、学校生活意欲や学級満足度から諸問題の未然防止・早期発見を図る。

事業費・財源内訳	千円
決算額	2,683
財源	
一般財源	2,683

[目的]

- 対象： 登校ができない児童生徒、全児童生徒
(何を・誰を)
- 意図： 心に悩みを持ち登校が困難な児童生徒について、適応指導やカウンセリング、学力補充などの支援を行い、早期の学校復帰を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

プログラム内容

- ・ 4月中旬から3月中旬まで、月、水、金の週3日、午前10時～午後2時の開催。
- ・ 主に午前は自主学習、午後は諸活動として美術、スポーツや調理実習などを実施。
- ・ 教室での活動のほかに課外活動にも力を入れ、自然、郷土学習にも積極的に取り組んだ。
- ・ 火、木はできる限り登校に繋がれるよう、学校や家庭と共に働きかけを行った。

- 対象児童生徒数 5名
- 開催回数 112日
- 復帰人数 ・卒業(進学)3名 ・学校復帰(部分登校含む)なし
- その他支援状況 ・「たより」を月1回発行し、家庭並びに学校に配付することで、活動内容をより具体的に紹介することができた。
- ・各生徒の担任や校長などが、教室を自由に訪れることで、生徒の所属感を維持した。
- ・月毎に各生徒の出欠状況、学習や活動状況を各学校へ報告した。
- ・定期的に指導主事及びスクールソーシャルワーカー(SSW)と打合せを行い、情報交換を行った。
- ・SSWが生徒に応じて、家庭訪問や保護者等との面談を行うことで、指導員の負担感の軽減に努めた。

Q-Uテストの実施

- ・各小中学校の全学級を対象に実施し、学級内の子どもたちの学校生活意欲や学級満足度を把握し、諸問題の未然防止・早期発見を図る。検査結果について、各学校内で検討し、学級経営に活かしている。

[事業の成果]

学校とのケース会議や保護者との教育相談などを通して、通級生に対する周囲の理解を深めていくことができた。

指導員2名体制で運営し、それぞれの得意分野を活かした幅を持たせた関わり・支援を実施し、個々のニーズに合わせた学習支援・体験活動・精神的ケアを行ない、児童生徒の意識向上を図ることができた。

[課題・改善点]

この事業は、長期欠席者をより多く「適応教室」に参加させ、登校へと導くことを目標にしており、まだ教室につながっていない長期欠席児童生徒に対しても、学校や家庭と連携を図りながら、学習支援や自立支援、生活支援を促していく方法を検討していく必要がある。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

より多くの長期欠席者を参加させるという課題はあるが、「適応指導教室」を開催し、得意分野を生かした学習支援や精神的ケアを行ったことで、本人の希望する進学へ導くことができた。

[教育長又は教育部長評価]

長期欠席児童生徒が抱える心の悩みはそれぞれにあるが、将来への希望も合わせ持つものであり、一人でも多くの児童生徒の復帰プログラムである本事業は、評価に値する。課題としては、一人でも多くの長期欠席児童生徒と保護者に本事業への理解を得て、参加を促すこととなる。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	2	思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成
事業名	1	学力向上対策事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

診断的学力検査、学年別知能検査、学習適応性検査を実施し、各校の特色に応じた学力向上プランを実践する。

事業費・財源内訳	
決算額	千円 5,379
財源	
一般財源	5,379

[目的]

対象： 小中学校児童生徒
(何を・誰を)

意図： 学力検査及び知能検査等の調査を実施し、本市児童、生徒の基礎学力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

調査を実施し、調査結果を分析し、個々の学習状況に応じて学力向上に寄与した。

[主な活動]

本宮市学力向上委員会を2度（5月、2月）計画し、その間は中学校区毎に随時研修会や授業研究会等を開き、授業力向上に努めた。

また、8回にわたって外部講師を招聘して教職員を対象とした授業力向上に向けた研修会を開催し学力向上を図るための有効な手だてなどについて研究協議を行った。年度末には、各学校の学力向上に向けた取り組みを振り返って、成果と課題をまとめるとともに各種検査結果から全国平均より下回っている内容の洗い出しを行い、平成27年度の具体的な取り組みを決めることができた。

チャレンジ学習奨励補助事業を開始。漢字検定、または、英語検定受験希望者に、一人1,000円を上限に受験料補助を行い児童生徒の学力向上対策の一助とした。

○チャレンジ学習奨励補助事業利用実績

児童生徒数	漢字検定 補助利用者数	英語検定 補助利用者数	合計	合格率	
				漢字検定	英語検定
小学校	1,785	915	915	90%	-
中学校	939	306	530	49%	74%
合計	2,724	1,221	1,445		

[事業の成果]

平成26年度全国標準学力検査NRTの偏差値平均では、小学校で国語が全国平均を上回り、中学校の英語と数学は全国平均と同程度であった。

チャレンジ学習奨励補助事業については全体の約5割の児童生徒が利用し、合格率は、漢字検定が小学校で90%、中学校で49%、英語検定は中学校で74%の結果であった。

教員の日々の授業力向上が学力向上に不可欠であることから、全教職員を対象に、年8回研修を実施し教職員の授業力と資質の向上を図った。

[課題・改善点]

平成26年度以降の市総合計画後期目標偏差値は小学校54.0、中学校51.0である。今回、全体の平均値は目標値にほぼ達するが、個々で見るとばらつきがあるため、NRTの結果を踏まえ、全体の学力底上げを図る取組の継続が必要である。

チャレンジ学習奨励補助事業については、利用者数5割を、さらに有効活用できるよう導きたい。

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">自己評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 5px;">B</div>	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 中学校は、市総合計画目標値(後期計画)に達し、小学校は、目標値に限りなく近づいている。チャレンジ学習奨励補助事業は、初年度でもあり受験者は5割ではあったが、学習意欲の向上と、努力・挑戦する力を養うことができた。</p> <p>[教育長又は教育部長評価] 教職員を対象とした授業力向上の研修会開催や、各学校での学力向上のための取り組みが全体的な学力向上につながっているが、小学校は総合計画の成果指標としている全国学力検査偏差値目標値54.0に達していない。また、新規事業として取り組んだ漢字検定や英語検定への児童生徒参加率が5割であったことを踏まえると、B評価が妥当である。</p>
---	---

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	3	心身の健全な成長を目指す教育の推進
事業名	1	小学校児童健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動や豊かな心と確かな学力を育む学力の創造など、学校の特色を生かした健康づくり活動を支援する。

[目的] 対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 正しい生活習慣を身につけ、体力の向上を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,400
財源	
その他	1,400

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を小学校PTA団体に一律200,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

学校名	主な事業内容
本宮小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・日常のはみがき指導に活用できる教材を購入し、正しい歯磨きについて継続的に指導している。 ・スポーツテストを実施した結果を踏まえ、基礎体力作りのため体育用教材を購入し、児童の体力・運動能力の向上に活用した。
本宮まゆみ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科指導により、はみがきの仕方などを学ぶことができた。運動用のボール類他の購入により、体力向上を図ることができた。 ・インフルエンザの予防のために、購入した加湿器及び児童のうがい、手洗いの励行の為罹患者が少なかった。
五百川小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・はみがき教室、「たばこの害」の授業を実施し、児童一人一人が健康づくりへの意識を高めることができた。 ・室内遊び用具を整備し、楽しみながら体力づくりをする機会を設定することが出来た。
岩根小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科教室を実施し、歯の衛生に関する興味関心が高まった。 ・身体測定を実施し、基礎的データの蓄積により一人ひとりデータを分析することにより、その課題解決のために、体育の授業に運動身体作りプログラムの自校化を図って取り組めた。
糠沢小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツテストを実施し、健康教育の環境の整備を進めた。 ・歯科衛生事業に取り組み、はみがきについて理解を深めた。 ・保健教育教材の補充を行い、衛生環境の改善・体力増進を図った。 ・家庭科の調理実習の材料を購入し、食育教育の充実に貢献した。
和田小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりや性教育に関する講師、歯科医や歯科衛生士を招聘し、健康づくりへの意欲や自分を大切にすることを高めることができた。 ・食育指導を行い、食を通して豊かな人間性を育むことができた。 ・体育関係の教材・教具等を充実させ、豊かな心と確かな学力を育む体力づくりと体育技能の習得を図ることができた。
白岩小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・球技用具を補充し、児童一人一人の技術向上へとつながった。 ・スポーツテストを実施、体力向上推進の一助となった。 ・家庭での歯科衛生のため、歯垢染出錠剤を購入し、保護者の口腔環境への関心が高まった。

※各学校の方針に基づき、健康づくり講演会や食育推進、体力づくり推進、保健指導推進事業などを企画運営するため、一律の補助を配当し、活動の一助としている。

[事業の成果]

健康に関する各種教室の開催、また、全学校で実施したスポーツテストの結果を踏まえた基礎体力作りに関する教材の購入等、学校の特色を活かした健康づくり活動を支援できた。

[課題・改善点]

体力テストの結果を見ると、昨年度を上回る結果であった。今後も体力テストの結果の推移に合った事業の展開を継続する。

<table border="1"><tr><td style="text-align: center;">自己評価</td></tr><tr><td style="text-align: center;">A</td></tr></table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p>学校の実態に応じた特色ある事業として、必要とする教材の購入や健康教育事業等を開催している。震災以降体力低下が懸念されているが、体力テストの結果では、昨年を上回り効果的であった。</p>
	自己評価		
A			
<p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>東日本大震災以降、児童の体力低下が懸念されているが、継続した本事業の取り組みにより、体力テストも上向きを示している。さらに、児童の実態に応じ各校で特色ある事業が展開されたものであり、評価されるものである。</p>			

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	3	心身の健全な成長を目指す教育の推進
事業名	2	中学校生徒健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動や豊かな心と確かな学力を育む学力の創造など、学校の特色を生かした健康づくり活動を支援する。

事業費・財源内訳	千円
決算額	600
財源	
その他	600

[目的]

対象： 中学校生徒
(何を・誰を)

意図： 正しい生活習慣を身につけ、体力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を中学校PTA団体に一律200,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

学校名	主な事業内容
本宮第一中学校	<ul style="list-style-type: none"> 給食指導を通し、食生活について理解を深めることができた。 薬物乱用防止教室の開催や、学校保健委員会を通し、教職員と思春期の生徒自らが、自分自身の心身の健康について、正しい知識を身につけることができた。
本宮第二中学校	<ul style="list-style-type: none"> スポーツテストを実施し、結果を運動能力向上の指導に用いた。 体力づくり用具を購入し、授業、昼休み等の生徒同士の交流や体力づくり、部活動指導に活用した。 講師を招聘し、薬物乱用防止教室を実施した。
白沢中学校	<ul style="list-style-type: none"> 講師を招聘し、性教育・薬物乱用防止の講演会を開催した。 講師を招聘し、スポーツを通し、健康管理と生活について学んだ。 スポーツ用品を購入し、体力づくりや生涯スポーツ奨励の目的で、休み時間等にスポーツを楽しんだ。

※各学校の方針に基づき、健康づくり講演会や食育推進、体力づくり推進、保健指導推進事業などを企画運営するため、一律の補助を配当し、活動の一助としている。

[事業の成果]

健康啓蒙に関する教室の開催、体力づくりに関する教材の購入を行い学校の特色を活かした健康づくり活動を支援できた。

[課題・改善点]

体力テストの結果を見ると、昨年数値と比べ緩やかな回復傾向がみられる。体力テストの結果の推移に合った事業の展開が必要である。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

学校の実態に応じた特色ある事業として、体力づくりのための備品の購入や健康教育事業等を開催している。震災以降体力低下が懸念されているが、体力テストの結果では、昨年を上回り効果的であった。

[教育長又は教育部長評価]

体力テストの結果は伸び悩んだが、毎年の継続した取り組みにより、環境や心身の健康に資する基礎は整いつつある。勉学との両立で一朝一夕に身につくものでもないが、3校独自の取り組みが時間をかけ結果に結びつくものと評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	4	子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実
事業名	1	特別支援教育支援員配置事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

通常の学級に在籍しながらも特別な教育的支援を必要とするLD、ADHD等の障がいをもった児童生徒に対し、一人ひとりのニーズに適切に対応するため支援員を配置する。

[目的]

対象： 市内小中学校に在籍する障がいのある児童生徒
(何を・誰を)
 意図： 多動傾向等にある児童生徒や集団生活に馴染めない児童等の特別な教育的支援を必要とする児童生徒が、在籍校における生活、学習等様々な教育活動へ参加できるよう適切な対応を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	18,064
財源	
その他	76
一般財源	17,988

[事務事業の活動実績]

発達障がい児童、情緒障がい児童及び肢体不自由児童への生活支援のため、一部を除く小中学校に特別支援教育支援員を10名配置した。

区 分	本宮小	本宮まゆみ小	五百川小	岩根小	糠沢小	和田小	白岩小	本宮二中
発達障がい支援	1				1		1	1
情緒障がい支援			1	2		1	1	
肢体不自由支援		1						

[事業の成果]

障害等のある児童生徒に対して、適切に「特別支援教育支援員」を配置して、発達や実情を踏まえた、個々にあった支援を行なうことができた。

[課題・改善点]

インクルーシブ教育の実践にあたり、特別支援教育支援員を配置し、一人一人のニーズに適応した教育ができた
と評価する。
限られた人数で、複雑で多種に及ぶ案件に対応するため、人材配置については十分な検討が必要とされている。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

普通学級に通う障害等のある児童生徒に対して、「特別支援教育支援員」を配置して、発達や実情を踏まえ個々にあった支援を行なった。それぞれ持っている能力を発達させる一助となり効果的であった。

[教育長又は教育部長評価]

インクルーシブ教育の実践にあたり、特別支援教育支援員を配置し、一人一人のニーズに適応した教育ができたと評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	5	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進
事業名	1	小中学校学校教育事業等助成事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

各学校の特色を生かした学習活動を実施する小中学校PTA団体に対し、助成金を交付する。

[目的] 対象： 小中学校児童生徒、小中学校PTA団体
(何を・誰を)

意図： 地域の特性を生かした体験的活動や、豊かな心と確かな学力を育む学習を展開し、児童生徒の健全で豊かな能力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳
決算額 千円

5,882

財源
一般財源

5,882

[事務事業の活動実績]

各小中学校PTA団体に対し、小中学校教育事業等補助金を交付した。

学校名	補助金額(円)	主な事業内容
本宮小学校	430,000	・遠足を実施し、自然体験活動・団体行動・公衆道徳を学ぶことができた。 ・合唱部に講師を招き、TBCコンクールや地区音楽祭でその成果を発表した。
本宮まゆみ小学校	410,000	・各教科の教材を購入し、学習指導の充実を図った。 ・鼓笛に使用する楽器の手入用具を購入し、機能・音色の維持と、児童の伝統継承の意識を高めた。
五百川小学校	354,000	・各学年の教師用の補助教材のCDを準備して、ALTによる英語授業の補助とした。国際理解教育に寄与した。 ・伝統的な日本の遊びを通して、けん玉やヨーヨーに親しみ、豊かな心を育む一助となった。
岩根小学校	424,000	・読書意欲を高める為に図書を購入し、その図書の紹介や読書活動重点期間を設定し児童の読書量が増えた。 ・視聴覚・理科教材を購入し、児童が興味関心をもって授業に取り組むことが出来た
糠沢小学校	262,000	・体験学習、校外活動の助により、多様な社会体験を学習することができ、豊かな人間性を育むことができた。 ・芸術鑑賞教室参加料を負担することにより、児童が等しく芸術について造詣を深めることができた。
和田小学校	168,000	・芸術鑑賞教室を通して、生の芸術に触れ、深い関心を持ち、豊かな人間性を育むことができた。 ・授業に必要な教材教具を充実させることで、児童の学習支援を図ることができた。
白岩小学校	293,000	・各教科の教授用物品を整備することにより、日々の授業がより充実して児童一人一人の学習に対する意欲が高まり、知識や技能を身につけさせることができた。
本宮第一中学校	1,473,000	・部活動用具等を購入し、スポーツ活動への取り組み等の充実が図られた。 ・演劇等鑑賞教室を開催し、音楽や環境教育を通じた情操教育の推進を行い、健全で明朗な生徒の育成を図った。
本宮第二中学校	1,195,000	・年次計画によりユニフォームなど、部活動用具の更新を充実することができた。 ・創立50周年事業にあわせ、キャリア教育の一環として講師を招聘し、講演会を実施した。
白沢中学校	948,000	・就学旅行の経費を補助する事で、歴史、文化、自然などの多くの知識を得る事が出来た。 ・部活動用具充実と共に、精神力も鍛えられ、教育目標の1つ「心と体を鍛える生徒」の達成ができた。
合計	5,881,500	

[事業の成果]

学校や地域の特性を生かした体験活動や講演会、豊かな心と確かな学力を育む学習活動の展開により、児童生徒の健全で豊かな能力の向上を図ることができた。
各学校、特色を生かした事業に取り組んでおり、児童生徒に対する指導も充実したものとなっている。

[課題・改善点]

P T A会員にも広く事業の目的及び成果を報告し、学校とP T Aが情報を共有しながら事業を継続していきたい。継続することで、各学校の教育事業を推進し、教育目標実現のための重要な事業として位置付けられる。

<table border="1"><tr><td style="text-align: center;">自己評価</td></tr><tr><td style="text-align: center;">A</td></tr></table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 各校でそれぞれの自由な発想の基、運営できるよう補助金を交付した。教育目標実現のため、芸術・スポーツ振興などあらゆる分野の特色のある教育事業を実施しており、児童生徒に対する指導も充実したものとなった。</p>
	自己評価		
A			
<p>[教育長又は教育部長評価] この事業は本市の大きな目玉であり、各校P T Aが各校と連携し、各校の特色を出した教育活動に結びついたことを評価する。</p>			

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	5	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進
事業名	2	第1・第2児童館運営事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

第1児童館及び第2児童館の運営及び事業について、本宮市社会福祉協議会に運営補助及び事業委託し、児童の居場所を提供するとともに、遊びや季節の行事等多様な活動を行う。

[目的]

対象： 地域児童、本宮市社会福祉協議会
(何を・誰を)

意図： 地域児童の安全な居場所づくりと遊び場の提供により、健全育成を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	5,903
財源	
一般財源	5,903

[事務事業の活動実績]

- ◆第1児童館（社会福祉協議会へ運営補助）
 - ①キッズボランティアクラブの開催（全13回）
 - ・参加対象者 小学4年～6年生
 - ・参加児童数 24人（延べ197人）
 - ・ボランティア指導員 4人（延べ41人）
 - ②児童館将棋クラブの開催（毎月2回：土曜日の午後）
 - ・全17回
 - ・延べ参加児童数 265人（延べボランティア数 98人）
 - ③第18回子ども将棋大会の開催（H27.2.22）
 - ・参加児童数 26人（ボランティア数 17人）
 - ④育児クラブ活動の支援（随時協力）
 - ⑤すくすく子育て講座の開催（H26.11.14、11.15）
 - ・延べ参加者 75人
- ◆第2児童館（社会福祉協議会へ運営委託）
 - ①幼児クラブの開催（毎週3回：月・水・金の午前中）
 - ・参加対象者 3歳～就学前の幼児とその保護者
 - ・開催日数 100日
 - ・参加幼児数 1,129人
 - ②10区ふれあいサロンの支援と活動場所の提供（全2回）
 - ・延べ参加者 51人

[事業の成果]

地域児童の安全な居場所づくりと遊び場の提供により、健全育成を図れた。また、子ども祭りの開催により、市全体に開かれた活動ができた。

[課題・改善点]

放課後児童保育の充実により、児童館利用との区分けが曖昧になっている。事業の統廃合を含め検討課題である。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

児童館の運営を委託することで児童の放課後の居場所づくりと遊び場が確保されている。児童がボランティアや事業に参加したり、地域社会との触れ合いを持つことで健全育成が図られた。

[教育長又は教育部長評価]

児童の居場所づくり及び地域福祉の拠点としての児童館運営が適切に行なわれ、成果を残しているものと評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	5	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進
事業名	3	放課後子ども教室推進事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

放課後に社会教育施設等を活用し、年間計画による一斉活動や子どもたちの要求に合わせた自由遊びの時間なども確保しながら活動指導員や安全管理員を配置し、子どもたちにスポーツ・文化活動などの体験活動を実施する。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 放課後等の子どもたちの安全で健やかな活動場所の確保を図るとともに、地域の人々と触れ合うことにより、考える力や社会のルールが身にどう変えるのか) につくなど健全な育成が図れる。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	2,929
財源	
県支出金	2,929

[事務事業の活動実績]

放課後の子どもたちの安全で健やかな活動場所の確保を図るとともに、地域の人々と触れ合うことにより、考える力や社会のルールが身に就くなど健全な育成が図られた。

1. 本宮市遊友クラブ運営委員会の設置

- 運営委員会の開催 (2回開催 ・ 委員16名)
- コーディネーターの配置 (本宮地区4名・白沢地区1名)
- 1クラブ当り係員の配置 (活動指導員2～3名・安全管理員2～3名)

2. 実施状況 (7ヶ所)

クラブ名	対象校	実施場所	曜日	児童数(名)	係員登録(名)
もとみや遊友クラブ	本宮小学校	本宮小学校	金	62	19
まゆみ遊友クラブ	本宮まゆみ小学校	本宮まゆみ小学校	水	46	15
ごひゃくがわ遊友クラブ	五百川小学校	五百川小学校	木	39	17
いわね遊友クラブ	岩根小学校	岩根地区公民館	月	35	12
ぬかざわ遊友クラブ	糠沢小学校	糠沢分館	木	67	12
わだ遊友クラブ	和田小学校	和田分館	水	48	10
しらいわ遊友クラブ	白岩小学校	白岩コミュニティーセンター	月	40	14
合 計				337	99

3. 参加状況

クラブ名	実施回数	参加児童 (延べ数)	参加係員 (延べ数)
もとみや遊友クラブ	31	1,410	164
まゆみ遊友クラブ	32	1,002	153
ごひゃくがわ遊友クラブ	32	772	171
いわね遊友クラブ	31	838	157
ぬかざわ遊友クラブ	32	1,818	162
わだ遊友クラブ	32	1,119	124
しらいわ遊友クラブ	30	749	134
合 計	220	7,708	1,065

[事業の成果]

各遊友クラブでは、地域の方々とは触れ合う機会を大切にしながら、地域の特性を活かした様々なプログラムにより活動しており、放課後の子どもたちの安心安全な居場所として、参加している子どもや保護者、または地域の方々から好評を得ている。

[課題・改善点]

児童が減少傾向にもかかわらず、参加児童が増えており、それらに対応するため、活動指導員や安全管理員の確保が重要となってきた。安定したクラブ運営を継続していくため、引き続き人員の確保と研修等により人材の育成に努めていきたい。

<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">自己評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 保護者及び地域の方々の理解をいただき放課後の安全安心な居場所として定着している。また、コーディネーター増員による支援体制の強化が図られ充実したクラブ運営となっている。</p> <p>[教育長又は教育部長評価] 保育の有無に拘わらない児童の安全で安心な居場所づくりに寄与し、住民ボランティアの指導と見守りの中、地域とのつながりを深めることができているものと評価する。</p>
自己評価			
A			

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	5	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進
事業名	4	通園通学支援事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

通園通学については、幼稚園は保護者の送迎、小学校は集団登校、中学校は徒歩又は自転車の基本とするが、通園通学に支援が必要な児童等に対する安全確保と負担の軽減を図る。

[目的] 対象： 通園通学の片道が概ね2キロメートル以上の園児・児童・生徒
(何を・誰を)

意図： 自転車通学者へのヘルメットの支給と通園通学バスの運行
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	22,072
財源	
使用料及び手数料	5,690
その他	8
一般財源	16,374

[事務事業の活動実績]

●ヘルメット支給状況

学校名	支給数
本宮第二中学校	106個
白沢中学校	83個

●通園通学バス距離別利用者数

区分	距離				合計
	2キロ未満	2km以上～4km未満	4km以上～6km未満	6キロ以上	
幼稚園	7人	34人	5人	0人	46人
小学校	18人	114人	32人	2人	166人
中学校	0人	54人	33人	19人	106人
合計	25人	202人	70人	21人	318人

[事業の成果]

通園通学については、幼稚園は保護者の送迎、小学校は集団登校、中学校は徒歩又は自転車を基本とするが、通園通学に支援が必要な園児、児童生徒に対する安全確保と負担の軽減が図られた。

[課題・改善点]

委託業者で運行計画に基づき適正に運行している。平成26年4月の全国的なバス料金改定により、委託料金が増額する予定であるため、運行体制やコース等検討する事が必要となっている。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

地域の見守りの目が届かない地区における、支援が必要な園児、児童生徒に対し、通園通学バスを運行している。安全が確保されたことで、保護者の安心と負担軽減が図られた。

[教育長又は教育部長評価]

目的に沿った事業が展開され、園児及び児童生徒の安全確保が図られたと評価する。しかし、27年度に向けては、バス料金改定に伴い運行経費の増大が見込まれることから、運行形態の見直しを含めた検討が必要と思われる。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	5	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進
事業名	5	子ども安全対策会議運営事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

子どもたちの安全・安心を確保するため、警察、学校、PTA、自治会、防犯ボランティア団体、関係機関及び地域住民等が幼児・児童・生徒の安全な登下校を地域全体で見守り、子どもたちを犯罪から守る取り組みをする。

[目的]

対象： 市内の子ども（幼児、児童、生徒）、関係・協力機関
(何を・誰を)

意図： 学校、地域、関係協力機関等の連携で子どもの安全対策体制を充実し、犯罪被害から子どもたちを守る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	3,629
財源	
県支出金	3,457
その他	14
一般財源	158

[事務事業の活動実績]

各関係機関それぞれで対応は行っているが、子ども安全対策会議は開催できなかった。また、一年間の日頃の活動に対し児童生徒等からのお礼状を各団体に贈った。

1. 関係機関

区分	機関または団体名
行政機関	本宮市、郡山北警察署、安達広域行政組合南消防署
教育関係機関	本宮市教育委員会、本宮市内小学校・中学校・高校・幼稚園・保育所、地区公民館・公民館分館
行政関連団体	本宮市消防団、防犯協会、行政区長会連絡協議会、社会福祉協議会、民生児童委員協議会、交通安全協会、交通安全母の会連合会、南達防犯指導隊、南達暴力排除連絡協議会、本宮地区少年補導員会、老人クラブ連合会、女性団体連絡協議会、文化団体連絡協議会
民間団体	もとみや青年会議所、本宮市商工会、本宮ライオンズクラブ、本宮ロータリークラブ、モットコムもとみや、本宮理容師組合、郵便局株式会社、JR東日本
保護者団体	各保育所・幼稚園・学校等PTA、母親クラブ連絡協議会、子ども会育成会連絡協議会

2. 主な防犯等の取り組み

- (1) 防災行政無線による広報
- (2) 安全パトロール
- (3) 各学校での協議会活動
- (4) 各学校で指定している「子ども110番の家」ののぼり旗を更新
- (5) パトロール車による巡回
- (6) 見守り隊による街頭指導
- (7) 110番の家の指定

[事業の成果]

関係機関及び各団体が連携し、子どもたちの安全・安心を確保するという目的達成のための活動ができた。

教育委員会では、下校時間帯である午後2時から午後4時を重点的に広報車両でパトロールし、広く市民への交通安全・防犯の意識啓発を図ることができた。

各学校では、協議会を設置し見守り体制の整備を図り、学区内の安全マップの作成、高齢者団体による通学路の立哨などの活動を実施している。

[課題・改善点]

南達方部学校警察連絡協議会などでの情報交換により、子どもたちを取り巻く環境について共通の認識のもと組織的に対応する必要がある。

それぞれの団体が活動を継続することが最大の課題である。一団体、個人が負担となることなく、地域全体で見守りができる環境を目指したい。

<div data-bbox="154 159 304 197" data-label="Text">自己評価</div> <div data-bbox="154 197 304 286" data-label="Text">A</div>	<div data-bbox="343 89 1495 224"> <p>[自己評価判断理由] 担当課長 街頭指導や安全パトロール等を実施するとともに、各関係団体等の協力により、子どもたちの見守りをし、交通事故や犯罪などの危険から守ることができた。</p> </div> <div data-bbox="343 224 1495 351"> <p>[教育長又は教育部長評価] 多くの関係機関等の協力の下、目的は達成されたと評価する。しかし、一同に会し目的を再認識するとともに、情報の共有を図ることは必要であり、子ども安全対策会議は開催すべきであると反省する。</p> </div>
--	--

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	2	成人教育事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

生涯学習のきっかけづくりや住民相互のコミュニケーションの場を提供し、趣味の多様化に伴い新しい内容の講座を設け、ニーズに応える。

[目的]

対象： 成人（市民、市内在勤者）
（何を・誰を）

意図： 生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質、能力の向上を図る。
（事業のねらい、対象をどう変えるのか）

事業費・財源内訳
 決算額 千円

379

財源
 その他

169

一般財源

210

[事務事業の活動実績]

成人教育事業として、中央公民館及び白沢公民館において各種成人講座を開催し、生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質・能力の向上を図ることができた。

○成人教育事業

（中央公民館）

講座名	開設期間	回数	受講生	子ども	延べ数
涼しげな夏のショール	6月	2回	10人	0人	19人
押し花教室	6月	3回	7人	0人	20人
時事川柳	7月	2回	11人	0人	19人
ALTと学ぶ 楽しい英会話	11月～2月	8回	13人	0人	97人
クワテープで作る大きめのバッグ	11月～12月	2回	13人	0人	26人
楽しい手織り千鳥格子のマフラー	12月	2回	6人	0人	11人
ウクレレ教室	11月～12月	5回	11人	0人	50人
簡単にできるレッスンバッグ	11月	1回	8人	0人	8人
クワテープで作る大きめのバッグ	2月～3月	2回	14人	0人	25人
楽しい手織りあじろ織りのショール	1月～2月	2回	10人	0人	20人
アクリル教室	2月～3月	3回	19人	0人	50人
きめこみパッチワーク	2月	1回	15人	0人	15人
ハーブでこけ玉づくり	2月	1回	23人	0人	23人
合計			160人	0人	383人

（白沢公民館）

講座名	開設期間	回数	受講生	子ども	延べ数
はじめてのパソコン講座	6月	5回	6人	0人	28人
基礎からはじめる水墨画	6月	3回	6人	0人	18人
楽しい遊印	6月	3回	9人	0人	42人
涼しげな夏のショール	6月	2回	10人	0人	19人
大人のための読書会	5月～8月	4回	2人	0人	8人
はじめてのパソコン講座	11月	5回	6人	0人	30人
はじめてのパソコン講座	12月	5回	5人	0人	23人
大人のための読書会	10月～12月	4回	7人	0人	28人
基礎から学ぶギター	11月～12月	5回	9人	0人	43人
親子で作るクリスマスケーキ	11月	1回	19人	0人	19人
千鳥格子のマフラー	12月	2回	11人	0人	21人
はじめてのパソコン講座	2月	5回	6人	0人	30人
ラテアート体験教室	2月	2回	8人	0人	16人
大人のための読書会	2月	4回	10人	0人	38人
絵本にでてくるお菓子を作ろう	2月	1回	10人	11人	21人
わらべうたで遊ぼう	3月	1回	25人	9人	34人
楽しい手織りあじろ織りのショール	2月	2回	9人	0人	16人
合計			158人	20人	434人

[事業の成果]

成人教育事業として、各種の講座を開催した中で、講座参加者によりクラブを立ち上げ定期的に活動を始める団体ができるなど、生涯学習を通して地域住民のコミュニケーションの場を提供することができた。

[課題・改善点]

市民が生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質・能力の向上を図ることができたが、定数に満たない講座もあり、今後一人でも多くの市民に参加できるよう、募集方法や広報活動に留意しながら、ニーズの掘り起こしを行い、引き続き、趣味の多様化に応じた興味関心のある新たな講座の開催に努めていきたい。

[自己評価判断理由] 担当課長

成人教育事業として、各種の講座を開催した中で、講座参加者によりクラブを立ち上げ定期的に活動を始める団体ができるなど、生涯学習を通して地域住民のコミュニケーションの場を提供することができた。また、成人講座が定着し、昨年度より受講者数が増加した。

[教育長又は教育部長評価]

各種講座の開催にあたり、企画の工夫により受講者数が増加したことは評価できる。今後は、さらに市民の満足度を高めていくために、多様化する市民ニーズを的確に捉え、魅力ある講座の開催に努めてほしい。

自己評価

A

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	3	女性教育事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

成人女性を対象とし、女性にとって身近な問題に関する内容の講座を開催する。

事業費・財源内訳 決算額	千円
	86
財源 その他	11
一般財源	75

[目的]

対象： 成人女性
(何を・誰を)

意図： 教養・趣味・健康に関する内容を学習することにより、豊かな人間性の醸成と資質、能力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

女性教育事業として、「レディースセミナー」の学級を開催し、健康・趣味・教養など幅広く学習し、楽しく仲間づくりをすることができた。

○女性教育事業

学級名	開設期間	回数	受講生	延べ数
レディースセミナー	6月～12月	8回	24人	168人

[事業の成果]

女性教育事業として、働く成人女性を対象に女性学級「レディースセミナー」を開催し、健康・趣味・教養などの学習会を通して、学級生の交流を図るとともに楽しく仲間づくりをすることができた。

[課題・改善点]

成人女性が生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質の向上を図るため、引き続き、趣味の多様化に対応しながら、成人女性の身近な問題に関する内容や興味関心のある講座の開催に努めていきたい。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

女性教育事業として、働く女性のニーズに応えた学習会が開催され、学習会を通して学級生の交流を図ると共に、豊かな人間性の醸成と資質・能力及び学習の自主意欲の向上を図ることができた。

[教育長又は教育部長評価]

都市部では、自らキャリアアップを図るためセミナーを開催する動きがある。行政が企画・提供するだけでなく、何のために何を望んでいるか、その場合の魅力あるテーマと講師は、負担をいただきながらも、高需要に応える、又は喚起するセミナーを目指すべきと考える。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	4	高齢者教育事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

各地区高齢者を対象とした長寿大学等を開設し、高齢者の身近な問題や教養・趣味等に関する内容についての講座を開催する。

[目的]

対象： 60歳以上の市民
(何を・誰を)
 意図： 教養・趣味・健康に関する内容の学習をとおして社会参加と仲間づくりが
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) でき、生きがいをもちながら生き生きと心豊かに過ごせるようにする。

事業費・財源内訳
 決算額 千円

82
 財源
 一般財源
 82

[事務事業の活動実績]

高齢者教育事業として、「本宮ふれあい塾」や各地区に「長寿大学」の学級を開催し、健康・趣味・教養など幅広く学習し、楽しく仲間づくりをするとともに生きがいのある心豊かな時間を過ごすことができた。

○高齢者教育事業

学級名	開設期間	回数	受講生	延べ数
本宮ふれあい塾	5月～12月	8回	25人	158人
青田地区長寿大学	6月～11月	4回	33人	125人
荒井地区長寿大学	6月～11月	6回	40人	174人
仁井田地区長寿大学	6月～11月	8回	35人	238人
高木地区長寿大学	6月～11月	8回	31人	173人
岩根地区長寿大学	6月～11月	8回	25人	183人

[事業の成果]

高齢者教育事業として、中央公民館では高齢者学級「本宮ふれあい塾」を、また、地区公民館では高齢者学級「長寿大学」を開催し、健康・趣味・教養などの学習会を通して、楽しく仲間づくりをするとともに生きがいのある心豊かな時間を過ごすことができた。

[課題・改善点]

高齢者が生きがいを持ち生き生きと心豊かに過ごし、社会参加と仲間づくりを図るため、引き続き、高齢化社会に対応した高齢者の身近な問題に関する内容や興味関心のある講座の開催に努めていきたい。
 また、高齢者の交通手段を考慮して、白沢公民館においても白沢地区の高齢者を対象とした高齢者学級の開催について検討していきたい。

[自己評価判断理由] 担当課長

高齢者教育事業として、高齢福祉課の実施する健康づくりを主体としたものにこだわらず、各地区の高齢者の要望に応えた学習会が開催され、学習会を通して仲間づくり、生きがいづくりなど、楽しく心豊かな時間を提供することができた。

[教育長又は教育部長評価]

高齢者の生きがいづくりや社会参加の促進など事業成果は評価できる一方、受講生がほぼ固定化している状況が見られる。団塊の世代も事業対象者に含まれることを踏まえると、地域の中で参加の呼びかけなどを検討していく必要がある。

自己評価

A

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	2	健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進
事業名	1	市民競技力向上対策事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

ソフトボール、バレーボール、陸上競技について専門家を招き、複数回にわたり、継続的に指導を行う。

[目的] 対象： 市民（主に小中学校児童生徒）
（何を・誰を）

意図：
（事業のわらい、対象をどう変えるのか） 市民個々の競技能力を高めるとともに、各種競技選手の育成を図る。

事業費・財源内訳	千円
決算額	3,500
財源	
一般財源	3,500

[事務事業の活動実績]

講師名	経歴	対象者	回数
中田 まり（ソフトボール）	1986年～1992年 全日本代表の主将	本宮一中 和田スポーツ少	25回
三本菅弘江（指導補助）	スマイル福島監督		
小川 宏（バレーボール）	福島大学男子・女子 バレーボール部監督	本宮一中 本宮・岩根 本宮二中 糠沢 白沢中 白岩スポーツ少	8回
特定非営利活動法人 スポーツ塾J.VIC所属 監督及びコーチ	オリンピック及び世界陸上 選手権大会出場経験者	市内小中学生 ふくしま駅伝選手	8回

[事業の成果]

全てのチームや選手に共通する基本的な動きを重視した指導を行う中で、普段の練習では行わないようなトレーニングなども取り入れ、学年や個人によってレベルは異なるが成長を確認することができた。

[課題・改善点]

バレーボールについて大学側とスポーツ少の複数チームの日程合せが難しく、参加チームが減少することがあった。

チームにより、また学年や個人によりレベルは異なるため、どのレベルに焦点を合わせるか難しい面があり、共通した指導では競技力向上を目指す本事業の目的と一致しない一面が生じており、今後はチーム個別のレベルに合った指導をするという形を取り入れて実施したい。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

各競技の専門家の的確な指導により、基礎的レベルが確実に上がっており、事業の成果があらわれていると考える。また、南達交歓陸上大会では新記録が認められるなど、継続的に実施していくことの重要性が認められた。

[教育長又は教育部長評価]

結果を得るためには時間を要すること、子どもたちは毎年変わることを踏まえると競技成績にすぐに反映するのは難しいが、継続により個の基礎力と指導者の指導力は向上していると評価する。生涯スポーツの観点からは、より多くの市民指導者に門戸を開き、広く市民に成果が反映されることが望まれる。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	2	健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進
事業名	3	スポーツ推進委員活動事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

市民に対しスポーツの普及と健康づくりの大切さの啓蒙を行うとともに、各種スポーツ大会運営の協力を行う。(定数20人以内)

[目的] 対象： 市民、スポーツ推進委員
(何を・誰を)

意図： 地域の身近な指導者として市民に対し指導助言を行い、個々の技術向上と体力向上の支援を行うとともに、地域のスポーツ・レクリエーションの普及、振興を図っている。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	884
財源	
一般財源	884

[事務事業の活動実績]

○活動実績

	事業名	活動人数【延べ】
1	ロードレース大会	13名
2	市民体力測定	13名
3	オリンピックデー・フェスタ in もとみや	4名
4	もとみや駅伝大会	5名
5	福島県縦断駅伝大会	5名
6	なわとび選手権大会	9名
7	福島県スポーツ推進員研究大会	17名
8	各種会議等(8回)	112名

[事業の成果]

市や市教育委員会が主催する大会、自主開催事業(市民体力測定会)など8事業に、延べ178名の委員に大会運営に協力いただいた。

[課題・改善点]

スポーツ推進委員17名を委嘱し各種事業の運営協力をいただいているが、委員それぞれ職業を持ち仕事に折り合いをつけながらの参加であり、活動・参加状況に偏り傾向が見受けられる。

委員の皆さんには、勤務の関係で全ての事業への参加は困難な方もいると思われるが、これからも協力をお願いし、地域のスポーツ・レクリエーションの普及、振興を図りたい。

[自己評価判断理由] 担当課長

オリンピックデー・フェスタや、福島県スポーツ推進員研究大会など県大会レベル以上の行事をスポーツ推進委員自らが中心となり実施することができ、地域のスポーツの普及活動に大きく貢献することができた。

[教育長又は教育部長評価]

スポーツ推進委員の活動が充実し各種大会等の参加協力回数も増えてきている。これは、各委員が自らの役割を認識し、使命感をもって行動していることに他ならず評価できる。

自己評価

A

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	3	「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進
事業名	1	しらさわ夢図書館運営事業
担当課		生涯学習センター（白沢公民館）

[事業概要]

住民の読書活動・情報活動の拠点として、読書活動の振興・活性化を図るために、図書館の適切な運営を行い、図書館資料を充実させ、利用者に必要な資料・情報の提供を行う。また「本宮市子ども読書活動推進計画」を実施するための具体的事業の企画・実施と広報活動を行う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	11,584
財源	
その他	203
一般財源	
	11,381

[目的]

対象： 市民
(何を・誰を)

意図： 市民が、読書の楽しみや有益性を認知し、生活のあらゆる場面で図書館の資料が身近に活用できるような環境をつくる。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

1. 市内幼稚園・保育所・小学校のおはなし会の開催にボランティアの協力を得ることで、読書推進活動のより一層の充実を図ることができた。
2. 図書館資料購入 2,193件

【出張おはなし会開催状況】

開催日	開催場所	対象者数(人)
6月10日	五百川小学校	100
6月16日	糠沢小学校	40
6月17日	白岩小学校	70
6月25日	第2保育所	61
6月26日	もとみや幼児の家	33
6月30日	糠沢小学校	33
7月17日	糠沢幼稚園	55
9月11日	和田小学校	33
9月19日	第3保育所	49
9月25日	白岩幼稚園	60
10月23日	和田幼稚園	35
10月24日	もとみや幼児の家	35
11月5日	岩根小学校	125
11月21日	第1保育所	105
12月3日	五百川幼保総合施設	100
12月11日	白岩幼稚園	55
12月18日	岩根幼稚園	110
1月15日	本宮小学校	100
1月19日	本宮まゆみ小学校	70
1月20日	本宮まゆみ小学校	50
1月27日	白沢保育所	65
2月5日	本宮小学校	80
2月13日	五百川幼保総合施設	99
合計		1,563

【有効登録者数】

施設名	有効登録者数(人)
図書館	8,631
図書室	4,642
移動図書館	2,834
合計	16,107

【利用状況】

	利用人数（人）	貸出数（件）	返却数（件）
4月	1,466	2,919	2,680
5月	1,731	9,673	2,887
6月	1,855	5,030	3,560
7月	2,925	5,355	4,936
8月	2,919	6,055	5,913
9月	2,030	8,667	8,810
10月	1,924	4,241	3,409
11月	2,240	6,738	5,895
12月	1,606	10,255	10,528
1月	1,522	5,020	4,821
2月	1,808	3,461	3,513
3月	2,029	3,221	11,272
合計	24,055	70,635	68,224

【事業の成果】

利用人数、貸出数、返却数とも前年より増加しており、貸出数は15%の増加となった。
 平成24年度に図書館・学校図書館ネットワーク機器の整備が完了し、図書館と学校の相互貸出や検索が可能となり、利便性が向上している。
 図書館で養成している読書活動ボランティアとの連携により利用サービスが向上した。

【課題・改善点】

学校図書館運営・整備に対して、図書館のボランティアの依頼が増加したため、より多くの新しいボランティアを養成するための講習会を開催しており、継続して育成を図る必要がある。
 学校図書館システムネットワーク化に伴い、各学校で購入した蔵書等の入力や装備業務に対応する人員の確保については、平成26年度より配置された学校司書の助力を得て対応しているが、今後も継続して配置が必要である。

【自己評価判断理由】 担当課長

学校図書館システムの稼働により、公共図書館から学校図書館への支援がより活発になり、児童・生徒の読書活動の活性化や学力の向上が期待できる。システム導入は本宮市の子ども読書活動の活性化につながっていると思われ、今年度の貸出数にも効果が表れていると推測される。

【教育長又は教育部長評価】

図書館と学校のネットワーク化により利便性が向上し、利用者が増加している。また、学校図書館司書を新規に1名配置することにより、特に子ども読書活動の推進に寄与していることを評価する。

自己評価

A

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	4	学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実
事業名	4	青少年健全育成推進大会事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

地区青少年育成推進協議会や関係機関等からの協力を得て、各小中学校、高校代表による「少年の主張」の発表と記念講演等を開催する。

事業費・財源内訳
決算額 千円

88

財源
一般財源

88

[目的]

対象： 青少年、青少年を取り巻く全ての人
(何を・誰を)

意図： 青少年問題のもつ重要性を踏まえ、広く市民や青少年と関わりのある人の理解と協力を得て、次代を担う青少年の健全な育成を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

○ 第8回本宮市青少年健全育成推進大会

(1) 開催日時：平成26年11月23日(日)

(2) 会場：サンライズもとみや

(3) 内容：○「少年の主張」作品発表(12名)

発表者 小学校の部	本宮小学校6年	木本 小百合
	本宮まゆみ小学校6年	松井 野乃花
	五百川小学校6年	三菅 悠真
	岩根小学校6年	樽井 伶佳
	糠沢小学校6年	柴原 もも
	和田小学校6年	磯松 太朗
	白岩小学校6年	菅野 千尋

中学校の部	本宮第一中学校2年	先崎 亮
	本宮第二中学校2年	佐久間 史穂
	白沢中学校3年	三瓶 陽

高校生の部	本宮高等学校	佐々木 彩夏
	浪江高等学校	熊谷 磨美

○ 記念講演 講師：福島大学 人間発達文化学類
教授 中田スウラ 氏
演題：東日本大震災と教育復興の現在

○ 大会宣言 本宮市教育委員会委員長 仲川 清

(4) 参加者：320名

[事業の成果]

次世代の主演となる子どもたちが、心豊かにたくましく成長できるよう、「本宮市青少年健全育成推進大会」の開催を通して、青少年健全育成の活動に対する市民の理解を深めるとともに、家庭・学校・地域社会及び行政が一体となった市民総ぐるみ運動の実践として青少年の健全育成を図ることができた。さらに、平成26年度より高校生2名の発表が実現でき、事業の充実が図られた。

[課題・改善点]

次世代を担う青少年の健全な育成を図るため、市民の理解と協力を得て、引き続き「本宮市青少年健全育成推進大会」を開催する。

[自己評価判断理由] 担当課長

少年の主張・記念講演・大会宣言など、青少年健全育成推進大会の開催を通して、青少年健全育成の活動に対する市民の理解を深めるとともに、青少年の健全な育成が図られた。

[教育長又は教育部長評価]

少年の主張に高校生が加わり、青少年健全育成推進大会が充実したことは評価する。しかし、大会イコール青少年の健全育成ではないので、更なる検討は必要と考える。

自己評価

A

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	4	学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実
事業名	5	青少年リーダー育成事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

中高生が体験活動やボランティア活動に参加し、自己研鑽に努めるとともに、少年教育事業のレクリエーションリーダーとして実践活動を行う。

[目的]

対象： 市内の中学生・高校生
(何を・誰を)

意図： 学校や地域等で活躍できる青少年リーダーを育成する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	15
財源	
一般財源	15

[事務事業の活動実績]

○ 青少年リーダー育成事業実施内容

学 級 名	対象	実 施 期 間	回数	受講生
もとみやジュニアボランティア協力員	中学生	平成26年9月 ～平成27年3月	6回	7名

[事業の成果]

青少年のリーダーとして、それぞれの事業計画に基づき、体験活動やボランティア活動の実践を通して、レクリエーションリーダーとしての基本的な知識や技術を学ぶことができた。

[課題・改善点]

次世代を担う青少年リーダーを育成するために、重要な事業であるが、参加者が少ないことが課題である。参加者の経験や活動実績について、中学校や・高校等に理解・協力をいただき、本人の活動履歴として評価に付け加えていただく等、参加者にとっての充実感や今後の成功体験の一部として生かしていけるよう学校との連携をとりながら進めていくことが重要である。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

青少年リーダー事業として、ボランティア活動等の実践を通して、次世代を担うリーダーとしての基本的な知識や技術を学習することができ、青少年リーダーの育成が図られた。また、市の主催する様々な事業にも参画し、ボランティア活動の充実感を体験できた。

[教育長又は教育部長評価]

東日本大震災以降、求められる又は期待されるリーダー像は変わりつつある。現行事業の継続によってリーダー育成につながっていると評価するが、課題にもあるように学校との連携は重要であり、参加者を増やしていく努力が必要と考える。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	5	文化や芸術に親しみ活動する機会の充実
事業名	1	文化芸術行事開催事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

文化への興味と参加意識を向上させるため、優れた舞台芸術や映画の鑑賞を提供する。
また、スポーツの実技指導の機会を市民に提供する。

[目的]

対象： 市内小・中学校の児童生徒、一般市民
(何を・誰を)

意図： 優れた芸術や映画の鑑賞などを通して、知識や教養を深め、情操豊かな市民を育成するとともに、市民の生涯学習を推進する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	6,315
財源	
その他	2,354
一般財源	3,961

[事務事業の活動実績]

(1) 文化・スポーツ振興基金事業（市民のための芸術鑑賞実行委員会補助金）

内 容	青島広志の世界わくわく音楽紀行Withブルーアイランド楽団公演
開催期日	平成26年7月12日(土) 14時30分 1回公演(約90分)
来場者	439人
会場	サンライズもとみや 大ホール
補助事業者	市民のための芸術鑑賞実行委員会
補助金額	1,812,490円

(2) みんなの作品展

内 容	余暇や講座等で制作した作品の展示
開催期日	平成26年11月29日(金)～12月4日(木) 6日間
出品内容	出展者/市民・市内勤務者108人 作品数178点 来場者390人
会場	中央公民館 展示ホール、第2研修室、第3研修室

(3) 子どもの映画鑑賞事業

内 容	親子ドリームシアター 「アナと雪の女王」
開催期日	平成26年8月16日(土) 1回目10時～・2回目13時30分～
来場者	幼児・児童・保護者759人
会場	サンライズもとみや 大ホール
事業費	108,000円

(4) 芸術鑑賞教室公演委託事業

幼児から中学生まで成長段階にあわせた芸術鑑賞教室を開催し、舞台の楽しさを体験することができた。

内 容	幼保芸術鑑賞教室公演「長靴をはいたネコ」/かかし座
開催期日	平成26年8月28日(木) 10時～11時
参加者	468人
会場	しらさわカルチャーセンター
事業費	550,800円

内 容	小学校芸術鑑賞教室公演演劇「泣いた赤おに・走れメロス」
開催期日	平成26年9月4日(木) ①10時20分～②13時30分～
参加者	461人
会場	しらさわカルチャーセンター
事業費	540,000円

内 容	中学校芸術鑑賞教室「オズの魔法使いと夢の国」
開催期日	平成26年12月5日(金) 14時～
参加者	225人
会場	しらさわカルチャーセンター
事業費	615,600円

(5) 文化活動支援事業補助金

内 容	第4回とっておきの音楽祭in南達
開 催 期 日	平成26年9月28日(日)
来 場 者	延1,000人
会 場	みずいろ公園
補 助 事 業 者	(社)もとみや青年会議所
補 助 金 額	500,000円

(6) 本宮市民俗芸能大会実行委員会補助金

内 容	本宮市民俗芸能大会
開 催 期 日	平成26年12月7日(日)
来 場 者	600人
会 場	しらさわカルチャーセンター
補 助 事 業 者	本宮市民俗芸能大会実行委員会
補 助 金 額	500,000円

(7) もとみやかるた大会補助金

内 容	第2回もとみやかるた大会
開 催 期 日	平成26年10月4日(日)
出 場 者	81人(来場者159人)
会 場	サンライズもとみや
補 助 事 業 者	本宮むかしむかしの会
補 助 金 額	311,700円

(8) 第53回福島県芸術祭負担金

内 容	第53回福島県芸術祭
開 催 期 日	平成26年9月13日(土)
来 場 者	612人
会 場	二本松市市民文化センター
補 助 事 業 者	第53回福島県芸術祭県北地区実行委員会
補 助 金 額	39,000円

[事業の成果]

子どもから大人そして親子を対象に、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、市民の文化芸術活動に対する意識向上が図られた。なお、アンケートの結果についても高い満足度の回答があった。
平成25年度から始まった「もとみやかるた大会」も継続され、新たな分野の開拓がなされ市民の文化活動に触れる機会の拡大が図られた。

[課題・改善点]

多くの文化芸術行事を開催し各事業ともほぼ前年を上回る参加者を得ることができ、一定の成果を上げることができた。今後も各事業についてニーズ調査や実施後のアンケートを充実させるとともに、実行委員会等の関係者との協議を行い、事業開催に工夫を加え市民の積極的参加を促していきたい。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

多種多様な事業を行っているなかで、観覧者に満足を与える事業を実施することができた。文化・スポーツ振興基金事業では、毎年多様な分野の企画がされており、市民の満足度は高いと推測される。

[教育長又は教育部長評価]

限られた予算の中で、市民の感性を刺激する事業がそれぞれに成功裏に展開できたものと評価する。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	6	本宮市の歴史と文化の継承と発信
事業名	1	文化財・史跡保存事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

文化財保護法、本宮市文化財保護条例などに基づき、歴史的価値の高い文化財についての管理、調査、指定、公開、愛護思想の普及啓発、保存修理を行う。

事業費・財源内訳	千円
決算額	12,937
財源	
その他	3
一般財源	12,934

[目的]

対象： 国・県・市指定文化財、天然記念物
(何を・誰を)

意図： 貴重な指定文化財・史跡を適切に管理保存し、後世に伝え遺す。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

文化財保護法、本宮市文化財保護条例などに基づき、歴史的価値の高い文化財についての管理、調査、公開、愛護思想の普及啓発、保存修理のための事業を行った。

○文化財看板設置及び修繕

指定文化財案内板及び説明板修繕（2箇所）

- ・「天王壇古墳」説明板写真部分修繕
- ・「白岩の太々神楽」説明板枠支柱修繕

120,960円

○指定天然記念物樹勢回復事業

- ・仁井田のモミジ
- ・誓伝寺のキャラボク

1,155,600円

○福島県指定文化財保存事業補助

- ・岩角山「那智観音堂」解体工事及び「奥ノ院」修復工事

11,191,500円

[事業の成果]

文化財の説明板の修繕を実施。埋蔵文化財包蔵地内の工事の立会を2カ所実施（太郎丸掃部館跡・瀬戸川館跡）。樹勢回復事業では2カ所実施。岩角山「那智観音堂解体修理」などへの適切な補助を実施し、震災で被害を受けた岩角山の復興に貢献できた。

[課題・改善点]

毎年、埋蔵文化財の試掘調査を2～3カ所ほど実施しているが、予算・人員等の問題から、迅速に対応できないことがある。今後も試掘調査が考えられることから、迅速な対応に心がけ、民間の開発に対処したい。

[自己評価判断理由] 担当課長

歴史的価値の高い文化財を守るために様々な事業を実施しながら、貴重な指定文化財や史跡を適切に管理保存することができた。

[教育長又は教育部長評価]

指定文化財等の保存について、年次計画に基づき実施できたこととともに、埋蔵文化財保存についても日常的に開発事業者に指導できたものと評価する。今後は、ノウハウの継承が課題と考える。

自己評価

A

基本目標	IV	安全で安心して学べる教育環境の確保
基本施策	1	安全な教育施設の整備
事業名	1	学校施設等耐震化推進事業
担当課		教育総務課

[事業概要]

市内の学校施設で昭和56年以前に建築された2階建て以上もしくは1棟の面積が200㎡以上のすべての施設について、耐震診断を行い、その結果に基づき耐震化工事を行う。

[目的] 対象： 五百川小学校、本宮第一中学校、白沢中学校施設
(何を・誰を)

意図： 地震で倒壊しない、児童・生徒等が安心して過ごせる施設にする。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	560,473
財源	
国庫支出金	115,475
市債	332,200
その他	112,798

[事務事業の活動実績]

- 五百川小学校
五百川小学校東校舎耐震補強改修工事を実施した。

取組内容

[東校舎耐震補強改修工事] 25繰越明許事業 (H26.4.30~H26.10.31)
居ながら施工により耐震改修工事を実施し、耐震性能の強化と学習環境の向上を図った。
・改修範囲 鉄筋コンクリート造3階建(昭和56年築)延床面積731㎡
・耐震補強 鋼管ブレース補強4箇所、クラック補修 外
・大規模改造 内外部大規模改修(多目的教室改修、図書室移動含む)
建具・家具・給排水設備更新、FF式石油暖房機新設 外

[東校舎耐震補強改修工事監理業務委託] 25繰越明許事業 (H26.4.18~H26.11.7)

- 本宮第一中学校
本宮第一中学校北校舎耐震補強改修工事及び南校舎耐震補強改修実施設計業務を実施した。

取組内容

[北校舎耐震補強改修工事] 25繰越明許事業 (H26.5.12~H27.2.27)
居ながら施工により耐震補強改修工事を実施し、耐震性能の強化と学習環境の向上を図った。
・改修範囲 鉄筋コンクリート造3階建(昭和47年築)延床面積1,849㎡
・耐震補強 鋼管ブレース補強3箇所、柱包帯補強2箇所、耐震スリット3箇所 外
・大規模改造 内外部大規模改修、トイレ全面改修、家具・実験台更新、
ベランダ手摺改修、FF式石油ヒーター新設、機械設備更新 外

[北校舎耐震補強改修工事監理業務委託] 25繰越明許事業 (H26.4.18~H27.3.6)

[南校舎耐震補強改修実施設計業務委託] (H26.6.20~H27.2.27)
耐震化計画に基づき、27年度に工事を予定している南校舎の実施設計を行った。
・改修範囲 鉄筋コンクリート造3階建(昭和48年築)延床面積2,467㎡
・耐震補強 鋼管ブレース補強19箇所、柱包帯補強8箇所、耐震スリット2箇所 外
・大規模改造 内外部大規模改修、トイレ全面改修、ベランダ手摺改修、家具更新
FF式石油ヒーター新設、機械設備更新 外

- 白沢中学校
白沢中学校体育館耐震補強改修工事に向けて、設計業務を実施した。

取組内容

[白沢中学校体育館耐震補強改修実施設計業務委託] (H26.7.10~H27.1.5)
・体育館改修実施設計業務 RC+S造2階建て 延床面積1,355.0㎡

[事業の成果]

学校施設等耐震化推進計画に基づき、平成26年度に予定された五百川小学校東校舎及び本宮第一中学校北校舎耐震補強改修工事を計画通りに実施することができた。
また、平成27年度に施工予定の本宮第一中学校南校舎及び白沢中学校体育館耐震補強改修事業の実設計業務を実施した。

[課題・改善点]

震災及び原発事故以降、工事請負業者の不足や工事単価の上昇が続いており、工事施工や事業費への影響が懸念される。

<table border="1"><tr><td style="text-align: center;">自己評価</td></tr><tr><td style="text-align: center;">A</td></tr></table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 学校施設等の耐震化事業は計画的に推進されており、施設の安全等が確保されることにより、児童・生徒が安心して過ごせるとともに、教育環境の改善と向上が図られた。</p>
	自己評価		
A			
<p>[教育長又は教育部長評価] 学校施設等耐震化推進計画に基づき、耐震改修が予定通り進められていることは、子どもたちの生命を守る施設として評価に値する。</p>			

基本目標	IV	安全で安心して学べる教育環境の確保
基本施策	2	安全・安心な教育環境の確保
事業名	1	学校給食放射性物質検査事業
担当課		幼保学校課

<p>[事業概要]</p> <p>給食の食材検査を実施する。</p> <p>[目的] 対象： 学校給食 (何を・誰を)</p> <p>意図： (事業のねらい、対象をどう変えるのか) 安全安心に提供する。</p> <p>[事務事業の活動実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セシウム134とセシウム137の合算値が10Bq/kg未満を独自基準値として毎食測定を実施する。 (※国の一般食品中の放射性物質の規制値は100Bq/kg) ・10Bq/kgを超えた食材数 . . . なし 	<table border="1"> <tr> <td>事業費・財源内訳</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>13,268</td> </tr> <tr> <td>財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 県支出金</td> <td>2,461</td> </tr> <tr> <td> 一般財源</td> <td>10,807</td> </tr> </table>	事業費・財源内訳	千円	決算額	13,268	財源		県支出金	2,461	一般財源	10,807
事業費・財源内訳	千円										
決算額	13,268										
財源											
県支出金	2,461										
一般財源	10,807										

<p>[事業の成果]</p> <p>各施設で実施している学校給食の測定について、食材毎、1食丸ごと、1食分検査を行い市独自基準である10ベクレル未満であることを確認し、安全安心な給食提供を行った。</p> <p>[課題・改善点]</p> <p>各施設にて検査を行っているが、集約して検査をすることが可能か検討を要する。</p>	
---	--

<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> </tr> <tr> <td>A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p>食材ごと、1食丸ごとの放射性物質検査を毎日実施し、安全安心な給食を提供することができた。また、「ホームページ」に公表することで、保護者の不安が解消につながっており、弁当持参の児童生徒は年々減少している。</p> <p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>福島県内の特異な事業であるが、被災市として向き合わなければいけない放射能対策である。安心と安全の拠り所であり、毎食欠かさず測定が行われ、子どもは勿論、保護者の理解につながったことを評価する。</p>
自己評価			
A			

事業名	教育委員会運営事業
担当課	教育総務課

[事業概要]

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき設置された教育委員会を運営し、教育行政を合議し執行する。

[目的]

対象： 市民、教育行政
(何を・誰を)

意図： 教育委員会の会議を開催し、教育に関する様々な施策を検討、決定
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) することで本市教育行政の充実と向上を図る。

事業費・財源内訳
決算額 千円
2,082

財源
一般財源
2,082

[事務事業の活動実績]

1. 教育委員会委員総数 5名

2. 教育委員会開催状況(開催日、議案等の内容)

会議名	期 日	出席委員数	議案等の内容					合 計
			人 事	施 策	条例規則	予算決算	その他	
定例会	26. 4. 23	5			1		7	8
定例会	26. 5. 20	5	2				6	8
定例会	26. 6. 27	5	1	1	1	2	7	12
定例会	26. 7. 24	5	1	5			2	8
臨時会	26. 8. 4	5		1				1
定例会	26. 8. 21	5			3	2	8	13
定例会	26. 10. 2	5		2		1	10	13
定例会	26. 10. 29	5			1	1	10	12
定例会	26. 11. 19	5		1	5	1	2	9
定例会	26. 12. 17	5				1	4	5
定例会	27. 1. 21	5		2	17		3	22
定例会	27. 2. 18	5		1	11	2	4	18
臨時会	27. 3. 6	5	1					1
定例会	27. 3. 27	5	3		7		3	13
合計	14回		8	13	46	10	66	143

3. 学校訪問実施状況

小中学校、幼稚園、保育所全施設を訪問し、学校経営及び教育活動概要、学校課題等の現状把握と要望の聞き取りを行ない、教育活動の支援に努めた。

期 日	出席委員数	訪 問 先
26. 5. 23	5	白沢中学校
26. 6. 25	5	糠沢小学校、糠沢幼稚園
26. 9. 18	5	本宮まゆみ小学校
26. 9. 29	5	岩根小学校、五百川幼保総合施設(保育所部)
26. 9. 30	5	本宮第二中学校、岩根幼稚園、第3保育所
26. 10. 22	5	本宮小学校、第1保育所、和田幼稚園、白岩幼稚園
26. 11. 10	5	白岩小学校、和田小学校、白沢保育所、第2保育所
26. 11. 17	5	本宮第一中学校
26. 11. 18	5	五百川小学校、五百川幼保総合施設(幼稚園部)

4. 視察研修の実施

東北六縣市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会に参加し、今後の教育委員会制度等の研修と、他市町村教育委員等との交流及び情報交換を行った。

研修月日：平成26年7月17日(木)～18日(金)

研修会名：平成26年度東北六縣市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会
研修場所：盛岡市民文化ホール(マリオス)

[事業の成果]

教育委員会定例会等の会議、保育所・幼稚園・小中学校への訪問事業、各種研修会への参加など、教育事情の把握や改善に努めた。また、教育委員会の会議公開及び会議録を市ホームページへ公開することにより、教育委員会の透明化を図った。

特に学校等訪問においては、教職員との懇談会を実施するなど、現場の声を聞き取り、教育活動の支援及び教育環境の整備に努めた。

また、視察研修においては、今後の教育委員会制度等の研修と、他市町村教育委員等との情報交換を行い、今後の本市における教育行政推進のための参考とした。

[課題・改善点]

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成27年4月1日から施行され、教育委員長と教育長を一本化した新「教育長」が設置され、第一義的責任者が明確にされるとともに、市長・教育長・教育委員が構成メンバーとなる「総合教育会議」が設置されるなど、教育委員会の組織・体制等が大きく変わるため、適切な対応が求められる。

[自己評価判断理由] 担当課長

教育委員会の円滑な運営により、教育行政における諸課題に適切に取り組むことができた。

また、学校訪問の実施により現状を把握することは、教育行政の充実と向上を図るうえで、有意義なものであった。

[教育長又は教育部長評価]

教育行政の中立性と安定性の確保、指導行政の重視、教育行政と一般行政の調和、生涯学習など教育行政の一体的推進等、創造的で人間性豊かな人材育成のために機能したとして評価する。

自己評価

A